

事務事業及び予算の執行実績

（令和5年度分「一部、令和6年度分を含む」）

静岡県立松崎高等学校

目

次

事務事業の概要	1
事務執行の根拠法令調	2 5
学校施設の概要	2 6
在籍生徒調	2 8
入学志願者及び入学者数調	2 9
卒業生の動向調	3 0
生徒の状況	3 1
授業料収納状況調	3 2
県収入証紙により徴収した使用料及び手数料調	3 4
預金調	3 5
郵券等受払調	3 5
歳入歳出外現金調	3 6
委託料等歳出予算執行状況節別集計表	3 7
委託料等歳出予算執行状況節別集計表	3 8
委託料に関する調	3 9
負担金支出調	4 1
建築工事調	4 2
繰越工事調	4 6
公有財産調	4 8
借地借家等調	5 0
事務機器等の債務負担行為又は長期継続契約に係る調	5 1
行政財産貸付・使用許可調	5 2
普通財産・借受財産等貸付調	5 3
職員公舎管理状況調	5 4
主要備品調	5 5
職員調	5 6
職員の年齢調	5 8
健康管理	5 8

□□□□□□

事 務 事 業 の 概 要

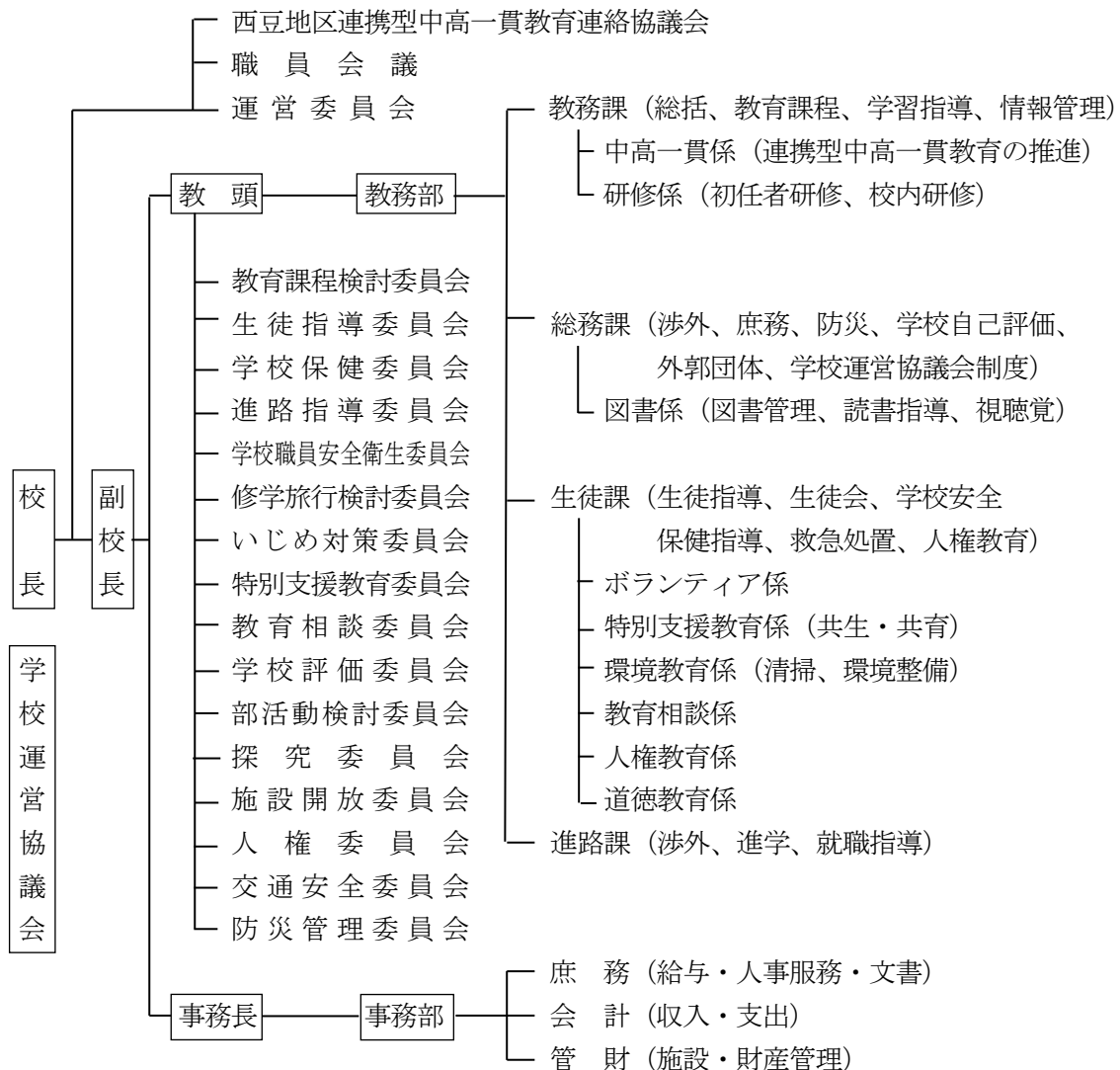
1 概況

(1) 学校の沿革

- 大正 12. 4. 1 松崎町立女子技芸学校として松崎町宮内に開校
13. 3. 13 静岡県松崎実科高等女学校と改称し、松崎尋常高等小学校に付設の件、文部大臣より許可される。
- 昭和 18. 4. 1 静岡県松崎高等女学校と改称
21. 3. 31 松崎町他 6 ケ村組合立松崎実業学校設立（修業 3 年）
21. 5. 15 実業学校第 1 学年農業科 59 人入学
21. 9. 1 松崎高等女学校松崎町他 6 ケ村組合立に移管
22. 4. 1 松崎高等女学校修業年限 3 ケ年制となり、第 3 学年を置く。
23. 4. 1 静岡県松崎高等女学校・松崎実業学校を合併して静岡県松崎高等学校（男女共学・通常課程普通科）となる。
24. 10. 1 県立に移管し、静岡県立松崎高等学校と改称、この日を創立記念日とする。
25. 3. 10 松崎町桜田 188 の現在地に校舎 1 棟を新築し移転
29. 6. 5 土肥町他 4 ケ村組合立西伊豆分校宇久須教場開設
定時制 夜間 普通科 募集定員 40 人
30. 1. 1 家庭科を設ける。
30. 5. 1 土肥町他 4 ケ村組合立西伊豆分校土肥教場開設
定時制 昼間 普通科 募集定員 40 人
33. 4. 1 西伊豆分校宇久須教場に定時制 昼間 農業科を設ける。
33. 10. 1 体育館兼講堂竣工
34. 4. 1 学級増加募集定員 200 人 西伊豆分校宇久須教場募集停止
土肥教場県立に移管し、土肥分校（全日制普通・家庭）となる。
募集定員 80 人 定時制 2、3 年生は全日制に編入
35. 4. 1 本校並びに土肥分校の家庭科廃止
38. 4. 1 募集定員 本校 350 人、分校 150 人
40. 4. 1 募集定員 300 人
41. 3. 31 土肥分校独立 静岡県立土肥高等学校となる。
43. 4. 1 募集定員 240 人
43. 6. 18 格技場竣工
44. 4. 1 募集定員 235 人
45. 4. 1 募集定員 230 人
46. 4. 1 募集定員 225 人
47. 3. 20 校舎 第 1 期工事 第 3 棟新設竣工
48. 2. 26 校舎 第 2 期工事 第 2 棟新設竣工
48. 4. 1 募集定員 270 人
49. 4. 30 校舎 第 3 期工事 第 1 棟新設竣工
49. 9. 20 創立 50 周年・校舎落成記念式典挙行

- 昭和 55. 3. 25 運動場拡張工事竣工
57. 4. 1 募集定員 225 人
58. 4. 1 募集定員 270 人
58. 7. 15 新体育館竣工
58. 9. 24 創立 60 周年・体育館落成記念式典挙行
- 平成 3. 4. 1 募集定員 225 人
4. 3. 13 部室棟建築工事竣工
4. 4. 1 募集定員 165 人
5. 4. 1 募集定員 163 人 新制服制定
6. 1. 28 プール建築工事竣工
6. 4. 1 募集定員 120 人
6. 6. 10 創立 70 周年・プール落成記念式典挙行
7. 3. 24 セミナーハウス建築工事竣工
7. 4. 1 コース制導入 総合コース・芸術コース・国際教養コースを設置
7. 8. 1 セミナーハウス落成記念式典挙行
12. 9. 25 校舎第 3 棟耐震補強工事竣工
15. 8. 29 校舎第 1 棟耐震補強工事竣工
15. 10. 1 創立 80 周年記念式典挙行
16. 4. 1 美術コース設置（芸術コース改組）
20. 4. 1 連携型中高一貫教育開始
校訓「求めて学び、耐えて鍛えよ」制定
コース改編 特進コース、総合・進学コース、美術コース
23. 4. 1 共生・共育開始
校舎 1 階部分に東部特別支援学校伊豆松崎分校開校
24. 2. 20 物置 4 号（陶芸室）解体撤去
24. 2. 20 陶芸室新設竣工
24. 3. 29 格技場解体撤去
25. 10. 1 創立 90 周年記念式典挙行
26. 2. 25 講堂兼体育館改修（屋根・内部）工事竣工
28. 2. 24 校舎第 1・3 棟及び講堂兼体育館外壁修繕工事竣工
31. 4. 1 募集定員 80 人
- 令和 3. 4. 1 東部特別支援学校伊豆松崎分校が本校の変更に伴い、学校名が
伊豆の国特別支援学校伊豆松崎分校となる
5. 10. 3 創立 100 周年記念式典挙行

(2) 組織図



2 目指す学校像

グラデュエーション・ポリシー

- ① 新しい価値を創造し、地域に主体的に貢献する生徒。
- ② 共生・共育を通して、自他を認め、大切にする生徒。
- ③ 知識・技能を活用し、他者と対話的・協働的に未来を切り拓いていく生徒。

カリキュラム・ポリシー

- ① 個に応じたきめ細やかな学習指導ができる教育課程を編成。
- ② 連携型中高一貫教育のもと、地域と連携した西豆学に対応した教育課程の編成。

アドミッション・ポリシー

- ① 何事にも粘り強く、主体的に取り組む生徒。
- ② 郷土を愛し、地域の課題を学び続けることができる生徒。
- ③ 他者を尊重し、素直な心と思いやりを持った生徒。
- ④ 自ら学び、自分の「生き方・在り方」を追求できる生徒。

3 監査対象期間の年度別学校経営の取組等

(1) 令和5年度の取組目標への評価及び成果と課題（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	確かな学力を育成し、社会を生き抜く力を身に付ける。	・授業に興味を持って取り組む生徒が80%以上 ・授業が分かる生徒が80%以上 ・年2回以上の授業参観 ・授業アンケートの実施 ・年間を通した各教科の中高交流 ・新学習指導要領に則り、授業改善に取り組んだ教員90%以上	授業に興味を持って取り組む生徒 81.0% 授業が分かる生徒 82.2% 授業参観 6月と11月 授業アンケート実施率 68.7% 中高交流 6月（11月は中止） 授業改善に取り組んだ教員 93.7%	A	・授業に興味を持って取り組む生徒は昨年度より減少した（4年度 85.2%）。授業が分かる生徒も減少（4年度 88.6%）。新学習指導要領に則った授業を教員が意識したことにより思考力が必要な学習内容になった影響か。授業アンケートの実施率を伸ばし、生徒の実態や興味とのバランスを取りながら授業改善をしていくことが求められる。 ・研修担当の呼びかけをもとに参観を踏まえた意見交換が活発に行われた。継続していきたい。 ・中高交流については学年閉鎖の影響もあり、11月は中止となった。貴重な機会であるので教科単位で柔軟に対応していきたい。
		・授業以外の学習時間が平日1時間以上、休日2時間以上の生徒 特進 70%以上 総合 50%以上	目標に達した生徒 全体 29.9% 特進 58.8% 総合 19.0%	C	・4年度（全体 35.8%、特進 47.8%、総合 27.8%）、3年度（全体 32%、特進 72%、総合 20%）と比べると、全体減少、特進微増、総合減少。課題以外の自発的学習の仕組みづくりとしてリクルート社の「スタディサプリ」の試験的導入（6年度3年生対象）を予定している。
		・読書1か月1冊以上の生徒が60%以上	1か月1冊以上の生徒 49.4%	C	・4年度と比べると3.4%減少した。生徒アンケートでは、松高50選の内容を変えてほしいとの声が上がったため、6年度の課題としたい。

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
イ	高い道徳観と規範意識を育成し、心豊かで健康な社会人としての良識を培う。	・年間出席率 99% 以上 ・年間遅刻総数 120 回以下 ・清掃に集中して取り組む生徒が 90%以上	出席率 97.9% 遅刻数 155 回 清掃 87.9%	B	・出席率は4年度（97.7%）並み。4年度に引き続き、精神面での欠席もあったが、各学年部で担任を中心に学年部や養護教諭との連携による声掛け等を行うことで復帰傾向にある。新型コロナウイルスやインフルエンザの罹患疑いによる家庭判断の欠席もいくつかあった。各分掌や担当と連携し欠席が多い生徒への対応を検討した。 ・4年度不登校生徒（病気や怪我等での欠席 30 日以上 of 長期欠席者を除く）4 名、中退・転学生徒 3 名→5 年度欠席 30 日以上 of 長期欠席者に該当する生徒数 1 名、中退・転学生徒 2 名。 ・遅刻の4年度 150 回からの微増に関しては、精神面での欠席から徐々に遅刻で登校へと変化していく過程での嵩みもあったか。 ・遅刻の理由は体調不良や通院がほとんどであるが、一部の生徒が不注意で遅刻を繰り返したため、自己管理についての指導を徹底したい。 ・清掃については、目標の数値に届かず、生徒がより自分たちの学校を自分たちで管理するという意識の向上を図っていくことが課題である。また、日常の清掃にはまじめに取り組む生徒が多いが、意識や意味づけを実感している生徒が少ない。与えられた持ち場で活動をするが集中はできていない等の課題もあるため、日常生活から整理整頓や美観維持に取り組むことや奉仕活動などを通し、社会生活への関連や位置づけを意識させることも検討したい。教職員も率先垂範して掃除に取り組む姿勢をもつことが必要である。

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
イ	高い道徳観と規範意識を育成し、心豊かで健康な社会人としての良識を培う。	・伊豆松崎分校と年間を通して計画的に交流する。 ・人権に関する情報を発信し、意識を高める。	年間を通じて、行事や授業などの交流を行った。	A	・伊豆松崎分校との交流では生徒会執行部が意欲的な取り組みを行い、球技大会では今年度よりボッチャを両校が取り組む正式種目として設定した。 ・7月の第5回職員会議にて「子どもの権利条約」への理解を中心テーマとして教職員向けの人権に関する研修を実施。 ・「発達に偏りのある生徒」への対応についての職員研修を大学の研究者を招き年間3回実施。第2回目の研修会は地区生徒指導推進事業「心を育む地域連携研修会」として賀茂地区の全中高の教員の参加を可能にした。 ・共生共育の推進のため、日教弘補助金を使用し、インクルーシブ教育に関する書籍を教員研修用に購入。 ・特別支援教育のセンター的な機能を活用し、賀茂地区第4回生地研の研修会を松崎高校に併設する伊豆の国特別支援学校伊豆松崎分校の特別支援教育コーディネータを招聘し、研修会を実施。
		・信頼できる先生がいると答える生徒が80%以上 ・自ら進んで挨拶できる生徒が90%以上 ・常に正しい服装の生徒が90%以上 ・学校が楽しいと感じる生徒が85%以上	信頼できる先生 83.0% 自ら進んで挨拶 91.4% 常に正しい服装 96.0% 学校が楽しい 88.5%	A	・朝の一斉指導の際、伊豆松崎分校と合同で、生活委員会による「朝の挨拶運動」を実施。松崎高校、伊豆松崎分校両校合同で年間を通じて実施。日教弘の補助金を使用し、両校ののぼり旗を作成、それを活用し活動を行った。 ・信頼できる先生がいる、挨拶、服装、学校が楽しい、のいずれも目標数値を超えており、それらが総合的に長欠・不登校生徒や転学・退学生徒の減少や生徒の居場所の創出に寄与していると考えられる。

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
イ	高い道徳観と規範意識を育成し、心豊かで健康な社会人としての良識を培う。	・双獅祭等の学校行事を教職員と連携しながら、生徒会主体で組織的に運営する。	対面式、双獅祭、球技大会を生徒会主体で運営した。体育祭は生徒による実行委員会が運営した。 学校内でのセーターの着用ルールについて校則を改正した。（令和4年度は指定の靴下以外の靴下の着用について改正）	B	・生徒会執行部の任期を変更し、教職員と密に計画を立て、生徒の意見を尊重して企画運営できた。伊豆松崎分校との交流の機会も増え、クラスTシャツの作成や球技大会でのボッチャの正式種目制定に繋がった。6年度に向けて、企画運営の際に生徒会執行部だけでなく、役員をはじめより多くの生徒が運営、実施に関わり意識を高めていくことが課題である。 ・校則改正については生徒会執行部が中心となり議論を行い、自分たちの学校生活がより過ごしやすい環境となることを目指し、改正に向けて意欲的に活動した。一方で、4年度は生徒会執行部が中心となり、地域の発展や活性化に貢献する取り組み（中高交流勉強会や新世代スポーツ交流会）を実施したが、5年度は、そこまでの活動へは至らなかった。地域を巻き込むような活動を生徒が創造し、リーダーシップを発揮し、地域活性化の担い手を育成していくことが課題である。
		・全部活動の目標を達成できた生徒 70%以上 ・新体力テストで前年より記録を伸ばす生徒が 75%以上	目標を達成できた 62.6% 前年より記録を伸ばした生徒 73%	B	・大多数の生徒が部活動に積極的に取り組んでいるのが現状だが、零れ落ちてしまっている生徒もいる。生徒・教員がより充実した活動のできる部活動の在り方を検討していくことが課題である。また生徒数・教員数の減少に伴う適正な部活動数の調整や、部活動運営についても検討が必要となってきた。 ・新体力テストでは4年度より記録を伸ばす生徒が 73%と目標に到達しなかった。運動部を引退した3年生が前年より衰えている者が多くこのような結果に至った。2年生では79%の生徒が前年より向上しているため、体育や運動部での取り組みが大きく関係しているよう感じた。

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
イ	高い道徳観と規範意識を育成し、心豊かで健康な社会人としての良識を培う。	・ 疾病治癒率が前年より上昇する。 ・ 朝食摂取率が100% ・ 毎朝の健康観察を行う。	疾病治癒率 視力 18.0% 歯科 16.2% 朝食接種率 90.3%	B	・ 疾病治癒率は前年比で視力-7.6%、歯科-1.6%と受診率が低下した。治癒率を向上させることは、生徒の生活の質や学習意欲の向上にも繋がる。学校医や専門家と連携しながら、自分自身や家庭での健康への意識を向上させること、受診の必要性を伝えることが課題である。特になう蝕率・う蝕治療率は地域全体として低いため、研修会等で改善に取り組む必要がある。 ・ 朝食摂取率は前年比+0.8%となった。中でも特進クラスの摂取率は98.0%(未摂取者1名)であり、朝食摂取への意識が高い。引き続き全体の朝食摂取率の向上と、朝食内容の質を上げるための取り組みをしていくことが今後の課題である。
		・ 生徒の心の問題に対してSC、学年、課、担任の間で情報を共有し、チームで支援する。 ・ 1分間カウンセリングを年2回実施する。	SCの生徒利用は3名(うち1名は2回)。 全校生徒との1分間カウンセリングを年2回実施した。	A	・ SCへ相談した生徒やその他気になる生徒への対応について助言をいただき、関係職員間で情報共有をしながら支援を行った。学年や担任教員とSCとの連携を強化すること、生徒・教員・保護者が気軽にSCを利用できるよう、より開かれた相談室にしていけることが今後の課題である。 ・ 時期を合わせて、学校適応尺度測定ツールの「アセス」を実施。学校適応感の低下している生徒を一覧にし、学年会等で対応についてケース検討を実施した。全9クラス平均偏差値(対人的適応:1学期 60.1→2学期 59.4、学習適応:1学期 53.3→2学期 52.8)両指数共に2学期にかけてやや低下。
ウ	キャリア教育を通じて、郷土に貢献し、社会の発展に寄与する人材を育成する。	・ 内定率 100%	内定率 100%	B	・ 就職指導では全教員が参加する面接指導に加え、外部機関による面接指導も実施し、就職内定率は100%であった。

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ウ	キャリア教育を通じて、郷土に貢献し、社会の発展に寄与する人材を育成する。	進路目標を確立（達成）できた生徒が 1年 70%以上 2年 80%以上 3年 90%以上	進路目標を確立（達成出来た生徒） 1年 56.7% 2年 70.5% 3年 95.7%	B	今年度1・2年生はキャリアの形成に関する行事を見直した。総合的な探究の時間や各種進路行事で多くの外部機関の方々に御協力いただき、生徒の将来の可能性を広げることに主眼を置いた。結果、進路の選択肢が増え、現段階では進路目標が明確に確立できていない生徒が増えたと考えられる。
		- 職場体験、進路研修、進路ガイダンスにおいて事前、事後指導を徹底する。 - 勤労観・職業観が深まった生徒 90%以上	勤労観・職業観が深まった生徒 85.1%	B	各種行事の振り返りを徹底することで、生徒の進路意識を向上させることができたが目標数値である90%の達成には至らなかった。原因として、勤労観・職業観という項目において、一部の進学希望者を中心に数値が伸びなかったと考えられる。
エ	地域と連携し、連携型中高一貫教育を発展的に推進する。	- 中高での定期的な意見交換を行う - 令和6年度から新しい「西豆学」の運用を行う。	6月、11月の全体研究会のうち、11月は学年閉鎖により中止。 1年生において地域との連携のもと実施	A	- コロナ禍も落ち着き、ほとんどの行事を予定通りに実施することができた。1月の西豆学中高合同発表会は4年振りに実施し、西伊豆中、松崎中、松崎高、伊豆松崎分校の4校の生徒が一堂に会して発表会を行うことにより、6年度以降の活動の基盤を形成することができた。 11月の第2回中高合同授業研修会は、感染症対応による学年閉鎖のために各教科部会は中止、各委員会は延期となった。その対応を決める際、中学校側と高校側での合意形成を図る過程で齟齬が生じてしまったため、今後も中高間でのより一層のコミュニケーションを図っていく必要がある。 - 西豆学の運用について、2030松崎プロジェクトと連携し、4年度の反省を踏まえ、計画を修正した。1年次に講義形式によって地域理解を深め、2年次において自己の設定した地域における課題の解決に向けてより深めていく探究のサイクルをより重視した活動へと変更した。校内での西豆学の実施方法を見直し、新しい地域との連携の形を模索することができた。

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
エ	地域と連携し、連携型中高一貫教育を発展的に推進する。				・中高合同発表会の位置づけも踏まえた実施方法の再検討も継続していきたい。 ・1年次での探究学習を踏まえて、自分で課題を設定することでより自由な探究学習を行うことができた。調べ学習で終わらない課題の設定が難しく、段階を踏んで練っていく必要性を感じた。
		・推進会議、運営委員会、各教科部会等を開催し、事業を円滑に実施する。 ・地域への発信を定期的に行う。	6月に教科部会、委員会、合同授業研修会を行った。 11月の教科部会と合同授業研修会は中止、委員会は後日個別で開催した。 西豆の教育の発行を予定した。	A	・11月中止の連絡調整等でやや円滑さに欠ける部分はあったものの、次年度以降の中高の在り方について建設的な意見交換がなされた。
		・学校ホームページ・SNS等の更新を行事ごと適宜行う。 ・学校は積極的に情報発信を行っていると答える生徒・保護者80%以上	生徒 82.2% 保護者 75.8%	B	・ホームページとSNSで同じ内容を発信していることがあるため、行事については、SNSと松高だよりに統一する。 ・部活動のホームページ更新は、顧問が行い、普段の様子などはSNSなどで発信できるようにしたい。 ・メールやweb媒体を活用し、保護者や生徒に各種外部相談窓口の連絡先等を定期的に配信し、保護者や生徒が援助希求できる機会の提供を行った。 ・学校公式 Instagram を通じて、学校行事等での生徒の取り組みを紹介できた。

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
エ	地域と連携し、連携型中高一貫教育を発展的に推進する。	・式典を計画通り開催する。 ・式典の中で生徒の発表の場を設ける。	10月3日に創立100周年記念式典を挙行了した。	A	・創立100周年記念式典では、生徒が司会進行をすることができた。 ・生徒会執行部が自分たちの考えを全校生徒へ伝えたり、審議を求めたりする機会を式典の実施と併せて設けることができた。
オ	安心・安全に生活できる環境を整備する。	・校内外、通学路等の点検を行う。 ・交通指導員の指導件数を年間10件以内にする。	校内外の点検を行うことができた。	B	・技能員による校内巡回・点検は毎日行われている。 ・危険箇所への迅速な対処ができた。 ・100周年記念式典開催に向けて、環境整備に取り組んだ。 ・点検結果については、学校全体で情報共有していく。 ・交通指導員指導件数は15件 ・生活委員会が中心となって年3回自転車マナーアップ街頭指導を実施。静岡県交通安全協会交通安全功労団体を受賞。
		・危険箇所の把握に努めるため、週1回以上の校内巡回を行う。	週1回以上の校内巡回を行うことができた。	A	・技能員による校内巡回は毎日行われている。 ・危険箇所への迅速な対処ができた。 ・心配のある箇所については、経過観察をしていく。 ・危険箇所の発見者から速やかに報告されるよう職員全体に周知していく。
		・校内避難訓練を3回実施する。 ・1回以上、地域防災訓練へ参加した生徒が90%以上 ・緊急時連絡メールを、全学年で90%以上の保護者及び生徒が登録する。	4月、6月、11月に実施した。 参加率 5.6% 登録割合 93.7%	A	・3回の訓練に加え、10月には自衛隊伊東地域事務所と連携して救護体験を実施することができた。 ・総合防災訓練の実施日が授業日と重なった上、地域防災訓練も津波注意報で中止となったため、参加できない生徒がほとんどだった。

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
カ	教職員の研修・研究活動を推進し、資質能力と指導力の向上を図る。	・年3回以上の全体研修会を実施する。 ・研修が役に立ったと答える教員70%以上	3回実施した。 研修に出席した教員のうち、役に立ったと答える教員100%	A	・伊豆松崎分校や近隣の中学校、高校も招いた形で実施ができた。 ・役に立ったと答える教員が100%ということで今後も希望をとりながら有意義な研修実施に努める。
		・年2回の教職員面談において、自己の課題と達成目標を確認する。	5月の期首面談で目標の設定について、1月の期末面談で目標達成状況について確認と助言を行った。	A	・学校の現状に照らし合わせて適切な目標設定ができるように助言できた。また、日常的に業務の進行状態についても声掛けを行うなどスムーズな業務の進行につながるように心掛けた。分掌や学年、教科というチームごとに進行状況を共有できるようにしていきたい。
キ	教職員自らが適切な勤務管理を行う。(ワークライフバランスの確立)	・月間の時間外業務が80時間以上になった場合に、自己診断チェックリストを提出し必要に応じて管理職と面談を行う。	勤務時間管理システムで時間外業務時間の確認を行い、必要に応じて面談や声掛けを行った。	B	・業務改善アンケートを行い、業務の削減を組織的に検討したがまだ改善の余地がある。
ク	効率的で適正な事務を執行する。	・監査や検査等で指摘がないようにする。	指摘事項は0件であった。	A	・処理方法について、アドバイスを受けることがあった。 ・軽微な誤りもなくすよう、相互の確認を徹底していく。
		・窓口や電話での対応において、苦情がないようにする。	苦情は0件であった。	A	・全員が親切丁寧な対応を心掛けた。 ・スムーズな取次ぎができるよう学校全体での情報共有が大切と感じる。
		・事務室からの連絡や提出書類については、職員、生徒及び保護者に分かりやすいものとする。	配布文書について、見やすいものとなるよう工夫した。	B	・文書の文字サイズ・フォントを工夫した。 ・提出された書類を参考に、更に簡潔で要点を押さえた書類作成を工夫する。

(2) 令和6年度の取組目標・達成方法・成果目標(重点目標はゴシック体で記載)

	取組目標	達成方法	成果目標	
ア	確かな学力を身に付け、社会を生き抜く力を育成する。	シラバスの適切な運用を行い、ICT機器を活用するなど生徒の興味を引きつける授業研究・改善を進める。	・授業に興味をもって取り組む生徒が80%以上 ・授業が分かる生徒が80%以上 ・年2回以上の授業参観 ・授業アンケートの実施 ・年間を通した各教科の中高交流 ・新学習指導要領に則り、授業改善に取り組んだ教員が90%以上	教 務
		適切な課題を与えることによって、学習の習慣を定着させる。	・授業以外の学習時間が平均して1日1時間以上の生徒 - 特進 70%以上 - 総合 50%以上	教 務
		読書活動の推進と読書の習慣を醸成する。	・読書1か月1冊以上の生徒が50%以上	総 務
イ	高い道徳観と規範意識を育成し、心豊かで健康な社会人としての良識を培う。	基本的生活習慣の確立を図る。	・年間出席率99%以上 ・年間遅刻総数120回以下 ・清掃に集中して取り組む生徒が90%以上	生 徒 教 務 各学年
		共生・共育を推進し、特別支援教育を充実させる。	・伊豆松崎分校との交流活動において、両校生徒が協働する場面を増やす。 ・人権に関する情報を発信し、意識を高める。	生 徒 教 務
		様々な場面を通して、日頃から生徒とコミュニケーションをとる。	・信頼できる先生がいると答える生徒が80%以上 ・自ら進んで挨拶できる生徒が90%以上 ・常に正しい服装の生徒が90%以上 ・学校が楽しいと感じる生徒が85%以上	生 徒
		生徒会活動の充実を図る。	・双獅祭等の学校行事を教職員と連携しながら、生徒会主体で組織的に運営する。	生 徒
		部活動や保健体育の授業を通して心身の鍛錬に励む。	・部活動を通して心身の成長を感じた(部活動を通して「生きる力」を身につけたと思う)生徒80%以上 ・新体力テストで前年より記録を伸ばす生徒が75%以上	生 徒 保健体育科
		病気予防や健康増進に取り組む、情報提供を行う。	・歯科及び眼科の疾病治癒率が前年より上昇する。 ・朝食摂取率が100% ・毎朝の健康観察を行う。	生 徒
		教育相談体制を構築させ、教育相談を充実させる。	・生徒の心の問題に対してSC、学年、課、担任の間で情報を共有し、チームで支援する。 ・1分間カウンセリングを年2回実施する。	生 徒

	取組目標	達成方法	成果目標	
ウ	キャリア教育を通じて、郷土に貢献し、社会の発展に寄与する人材を育成する。	進路指導マニュアルに従い学年ごとに適した進路指導を行う。	・内定率 100% ・進路目標を確立(達成)できた生徒が 1年生 70%以上 2年生 80%以上 3年生 90%以上	進路
		就業に関わる体験的活動や計画的・体系的なキャリア教育を推進し、勤労観・職業観を育成する。	・進路研修、進路ガイダンス等において事前、事後の指導を徹底する。 ・勤労観・職業観が深まった生徒 90%以上	進路
エ	地域と連携し、連携型中高一貫教育を発展的に推進する。	中高間で連携し、6年間を見通した「西豆学」の見直しと検討を進める。	・中高での定期的な意見交換を行う。 ・組織的で系統だった新しい「西豆学」の運用を行う。	進路教務 1年部 2年部
		連携型中高一貫教育連絡協議会の事務局としての中心的役割を担う。	・推進会議、運営委員会、各教科部会等を開催し、事業を円滑に実施する。 ・地域への発信を定期的に行う。	管理職 教務 中高一貫 担当
		計画的な広報活動を推進する。	・学校ホームページ・SNS等の更新を行事ごと適宜行う。 ・学校は積極的に情報発信を行っている と 答える生徒・保護者 80%以上	総務 生徒
オ	安心・安全に生活できる環境を整備する。	命を守る視点から、安全教育を推進する。	・校内外、通学路等の点検を行う。 ・交通指導員の指導件数を年間 10 件以内にす	生徒 事務
		施設・設備を定期的に点検し、管理する。	・危険箇所の把握に努めるため、週 1 回以上の校内巡回を行う。	事務
		防災教育の推進を図り、地域に貢献する高校生を育成する。	・校内避難訓練を 3 回実施する。 ・1 回以上、地域防災訓練へ参加した生徒が 90%以上 ・緊急時連絡メールを、全学年で 90%以上の保護者及び生徒が登録する。	総務
カ	教職員の研修・研究活動を推進し、資質能力と指導力の向上を図る。	授業力量を向上させるための校内研修を充実させる。	・年 3 回以上の全体研修会を実施する。 ・研修が業務改善の役に立ったと答える教員 70%以上	教務
		教職員人事評価制度を活用し、課題と達成目標を設定する。	・年 2 回の教職員面談において、自己の課題と達成目標を確認する。	管理職

	取組目標	達成方法	成果目標	
キ	教職員自らが適切な勤務管理を行う。(ワークライフバランスの確立)	教職員が各自の業務記録を正確に行い、適切なワークライフバランスの意識を持つ。	・月間の時間外業務が80時間以上になった場合には、自己診断チェックリストを提出し、必要に応じて管理職と面談を行う。 ・年休を取得しやすい環境づくりを行う。	管理職
ク	効率的で適正な事務を執行する。	表簿等の管理を厳正に行い、適正かつ正確な会計処理を行う。	・監査や検査等で指摘がないようにする。	事務
		生徒・来訪者等に対して親切、丁寧な対応を徹底する。	・窓口や電話での対応において、苦情がないようにする。	事務
		常に創意・工夫した事務改善を図る。	・事務室からの連絡や提出書類については、職員、生徒及び保護者に分かりやすいものとする。	事務

4 監査対象期間における特色ある取組

年 度	取組概要	成果及び課題
令和5年度	○連携型中高一貫教育の推進 連携する2中学校(松崎中・西伊豆中)と次のような取組を行った。 ・交流授業、中高合同研修会、中高授業研修会、中高合同あいさつ運動、中高合同美術教室、部活動交流、中高合同テニス大会、キッズイングリッシュ等の実施 ・他校(県内外の連携型中高一貫校)訪問の実施と自校での情報共有。	・今年度はコロナ前と同様な形で連携2中学との連携事業を行うことができた。それぞれの行事がより充実した形になるように各担当同士で話し合っている。 ・中高授業研修会では授業を見合う中で相互の授業の工夫、生徒の様子などを知ることができ、自校での授業改善に役立てることができた。 ・一方で連携中学からの本校への進学率は下降しているため、学校の魅力化に取り組むとともに、広報活動にもさらに力を入れていく必要があるが、このことは地域の少子化が大きく影響しているため、継続的な課題である。 ・数学、理科については中学へ出向き交流授業を行った。また、理科の出前授業ではDNAの抽出実験を行った。動植物のDNAを実際に目にするなど中学生の興味を引きつけた。

年 度	取組概要	成果及び課題
令和 5 年度	○共生・共育の実施 ・平成 23 年度に本校の同一校地内に伊豆の国特別支援学校伊豆松崎分校が設置されて以来、共生・共育を実施している。両校の生徒が文化祭、体育祭、防災訓練等で活発に交流を行った。 ○地域との協働 ・棚田実習や地域の行事等に本校生徒（学年・生徒会・部活動単位）が参加している。 ・地域防災の日を家庭学習日として、地域の防災訓練にも多くの生徒が参加し、防災面でも協力した。 ・吹奏楽部やサイエンス部、美術部等、部活動単位で様々な地域のイベントに参加要請があった。	・挨拶運動、新入生との対面式、文化祭、体育祭、防災訓練等を共同実施した。また生徒の交流だけでなく、相互の職員研修に参加しあうなど、教員としての資質を高める機会も提供しあった。 ・この地域は高齢者が多いので共助という意味でも高校生の参加は重要な要素である。また校内での防災訓練と避難訓練を行い、地域防災の意識の喚起も促した。 ・美術部は町の振興公社から依頼を受け、看板のデザインを制作し町の活性化に向けて貢献した。吹奏楽部も町のイベントへの出演依頼が多く、いずれも好評であった。
令和 6 年度	○地域と連携した「総合的な探究の時間」の推進 ・松崎町 2030 プロジェクトの推進メンバーである地域内外の方々を講師に講話、フィールドワークを行った。 ○静岡大学と静岡県立大学の教授・学生の協力を得て、個々の探究活動を深めた。 ○地域を知る活動として棚田実習や林業体験を行った。 ○共生・共育の実施 ・対面式、球技大会、文化祭、体育大会等の行事を合同で行った。 ○中高一貫連携事業として交流授業、中高テニス大会、移動美術館、キッズイングリッシュ、部活動交流などを行った。今後、デッサン教室、美術鑑賞教室、ジオパーク学習会、「総合的な探究の時間」である西豆学の発表会をおこなう予定である。	・講話やフィールドワークをとおして地域課題を認識するとともに地域の大人や大学生と交流する中で、課題を深堀することや、解決に向けて自分たちにできることを深めることが課題である。 ・地域の産業について触れ、地域課題や解決と結び付けて考える材料になっている。 ・生徒には思いやりや共生社会という概念が定着してきている。 ・中高連携事業の見直しにとりかかっているが、部活動交流と西豆学はこの地域にとって非常に意味のあることであると考え、今後も維持・発展させていきたい。

5 教職員について

(1) 令和5年度異動状況

(単位：人)

職名 区分	本 務 職 員												本 務 計	臨時・会計年度任用職員								臨時 計	合 計		
	教育職員						小 計	行政職員						小 計	教 諭 臨	実 習 助 手 臨	兼 務 講 師	A L T	非 常 勤 講 師	初 任 者 研 修 指 導 員	非 常 勤 労 務 職 員			部 活 動 指 導 員	
	校 長	副 校 長	教 頭	教 諭	養 護 教 諭	実 習 助 手		事 務 長	主 任	主 事	技 能 長	主 任 技 能 員													
転出者			1	3		1	5			1			1	6										0	6
退職者							0						0	0			1		2	1				7	7
再任用 (退職)				1			1						0	1										0	1
転入者				2			2						0	2										0	2
新任者			1	1			2			1			1	3		1							1	5	8
再任用 (新任)				1			1						0	1										0	1
差引増減	0	0	0	0	0	▲1	▲1	0	0	0	0	0	0	▲1	0	1	▲1	0	▲2	▲1	0	1	▲2	▲3	

(2) 現員数 (令和6年10月31日現在)

(単位：人)

職名 区分	本 務 職 員												本 務 計	臨時・会計年度任用職員										臨時 計	合 計
	教育職員						小 計	行政職員						小 計	教 諭 臨	実 習 助 手 臨	兼 務 講 師	A L T	非 常 勤 講 師	初 任 者 研 修 指 導 員	非 常 勤 労 務 職 員	部 活 動 指 導 員			
	校 長	副 校 長	教 頭	教 諭	養 護 教 諭	実 習 助 手		事 務 長	主 任	主 事	技 能 長	主 任 技 能 員													
男	1		1	11			13		1	1		1	3	16	3				1		1	1	6	22	
女		1		6	1		8	1			1		2	10		1		1	3				5	15	
計	1	1	1	17	1	0	21	1	1	1	1	1	5	26	3	1	0	1	4	0	1	1	11	37	

(3) 健康管理について

【令和5年度】

ア 目的

職員の健康管理を図り、健康増進に努める。

イ 取組内容及び成果

(ア) 検診等

生活習慣病検診や指定年齢検診等を受診することで疾病の早期発見に努め、異常等が指摘された場合は早めに再検査を受けるよう指示を行った。

ストレスチェック検査の実施を全教職員に呼びかけた。また、高ストレス状態の判定が出た教職員に対しては、医師との面談を早期に実施するように呼びかけた。

(イ) 職員安全衛生委員会の開催

職員安全衛生委員会を原則月 1 回行い、職場環境の改善点を整理して対応した。安全衛生委員以外の職員にもアンケートを実施し、要望を吸い上げ、改善に向けて検討・実施した。また、「働き方改革」に合わせ、教職員の超過勤務に関するデータの提供や対応策、職員の健康管理に関する研修の立案等についての意見交換も行った。それについても委員会の中で生徒・職員の安全と衛生面からの対策を検討し職場環境の改善に努めた。

(ウ) 安全管理

年度当初、アナフィラキシーへの対応について教職員間で情報共有をした。夏季には体育の授業や部活動時の熱中症対策としてWBGT測定器を体育科と各部活動に配布し、一定の基準を超えた場合は生徒の健康観察を行い、活動時間や内容を変更したり、水分等の補給回数を増やすなどの対応をした。AED（自動体外式除細動器）、心肺蘇生法等の応急処置の講習をマラソン大会前に行い、安全な行事の運営に向けて研修を行った。AEDに不備がないか、学校敷地内に危険箇所がないかについては日常的に点検した。

ウ 課題

職員の退勤時間が 21 時以降になるケースが多いため、仕事量の分散化や勤務の合理化を様々な面で呼びかけ、退勤時間を早めることが課題である。

【令和 6 年度】

ア 目的

職員の健康管理を図り、健康増進に努める。

イ 取組内容及び成果

(ア) 検診等

生活習慣病検診や指定年齢検診等を受診することで疾病の早期発見に努め、異常等が指摘された場合は早めに再検査を受けるよう指示を行う。

ストレスチェック検査の実施を全教職員に呼びかけた。また、高ストレス状態の判定が出た教職員に対しては、医師との面談を早期に実施するように呼びかけている。

(イ) 職員安全衛生委員会の開催

職員安全衛生委員会を原則月 1 回行い、職場環境の改善点を整理して対応している。また、「働き方改革」に合わせ、教職員の超過勤務に関するデータの提供や対応策、職員の健康管理に関する研修の立案等についての意見交換も行っている。それについても委員会の中で生徒・職員の安全と衛生面からの対策を検討し職場環境の改善に努めている。

(ウ) 安全管理

夏季には体育の授業や部活動時の熱中症対策としてWBGT測定器を体育科と各部活動に配布し、一定の基準を超えた場合は生徒の健康観察を行い、活動時間や内容を変更したり、水分等の補給回数を増やすなどの対応をした。職員室内に製氷機を新設し、部活動にも対応できるようにした。AED（自動体外式除細動器）、心肺蘇生法等の応急処置の講習をマラソン大会前に行い、安全な行事の運営に向けて研修を行う予定である。AEDに不備がないか、学校敷地内に危険箇所がないかについては日常的に点検している。

ウ 課題

仕事量の分散化と勤務の合理化を進め、職員の時間外勤務を減らしていきたい。

(4) 教職員の研修について

【令和5年度】

ア 研修の目的

地域の少子化と学校の定員割れを鑑み、連携中学とより発展的な連携を行う。また連携中学に加え、他地区の生徒・保護者のニーズにも応えられるようにコース制の在り方と学校の魅力化、その方向性について共通理解を図る。過疎化が進む西豆地域において、生徒が地域の魅力を再確認し、将来地域のためにできることを具体的に考えるような「総合的な探究の時間」の2年間計画を確立できるように内容を精選していく。さらに年々生徒の質が多様化する中で、特別な支援を必要とする生徒へのより良い対応の在り方について学ぶことで、教職員個人としてのスキルアップを目指す。教職員個々のスキルアップが生徒の支援と成長につながり、ひいては教職員の勤務時間削減にもつながると考える。

上記の内容に加え、学力向上、コンプライアンスの徹底などを目的に研修計画を立てた。

イ 研修内容

(ア) 連携型中高一貫教育について

「中高一貫教育連絡協議会」の各委員会、教科部会を中心に中学校、高校の学習内容の接続、6年間を見通した生徒指導、進路指導について研修を行った。学習指導については授業交流並びに授業参観等の取組の中で、中学校段階で必ず身につけておくべき内容（ミニマム・スタンダード）を検討し、中高の教員が共通の認識を持つよう配慮した。生徒交流の分野では部活動の交流について、西豆学（総合的な探究の時間）の見直しについては委員会を中心に活発な意見交換が行われた。

(イ) 確かな学力の育成

授業力の向上を目標に教員相互の積極的な授業参観の呼び掛け、授業改善、授業力の向上のための研修を進めた。さらに観点別評価について、評価の仕方や指導と評価を一体化させた授業づくりについて情報共有を行った。

(ウ) 特別支援教育に関する研修

今年度は高校における特別支援教育の基本、教育相談での関わりと支援、学校でできるケース検討会の在り方について学ぶため、外部講師を招いて研修を行った。

(エ) コンプライアンスに対する高い意識

管理職による不祥事根絶に関する情報提供と研修の機会を充実させた。不祥事の事例研究を学年ごとに行い、不祥事根絶に向けた意識の高揚を図った。同時になんでも話せる職場の雰囲気づくりを心掛けた。

(オ) 総合的な探究の時間に関する研修

3 学期には講師を招いて「総合的な探究の時間」に関する職員研修を行った。

ウ 成果

(ア) 連携型中高一貫教育について

- a 数学と理科の教員が連携中学校に出向いてティームティーチング等で中学生の指導を行った。
- b 授業研修会（6 月〔西伊豆中学〕、11 月〔松崎高校〕）を実施し、授業を公開・見学の後、各教科の授業研究を行い、中高での接続した指導について研究を深めた。教科独自に研究授業を行うことで指導法について研修を行う教科もあった。
- c 各委員会（学力向上委員会、生徒交流委員会、「西豆学」委員会、生徒指導委員会）における活動では、おおむね計画的に事業を実施した。
- d 教科部会における活動（「出張授業」・「中高合同美術教室」・「キッズ・イングリッシュ」等）を実施した。中高合同発表会も 1 月に行った。

(イ) 確かな学力の育成

- a 基礎基本の定着を中心に、各教科、教員が取り組みを続ける。各学期ごと、観点別評価について検討し、評価と一体化させた授業力の向上に努めた。
- b 年間で 2 回の公開授業月間を設け、教科を超えて相互にできるだけ多くの回数、授業参観することを実践した。参観後にはコメントシートに記入し、授業者に手渡すなど授業改善につながった。

(ウ) 特別支援教育に関する研修

常葉大学の教授を講師に年間 3 回の研修を行った。生徒の様子を思い浮かべながら、具体的な声のかけ方、支援の仕方などについて研修をすることができた。

(エ) コンプライアンスに対する高い意識

コンプライアンス通信を用いて月 1 回職員会議後に研修を行った。日常的には新聞記事を利用して不祥事根絶に向けた啓蒙を行った。

(オ) 総合的な探究の時間に関する研修

地域学習により重点を置いた計画の見直しに向けて校内委員会を立ち上げ、行事の精選や各学年の総合的な探究の時間の在り方について研究した。県教育センターによる研修も行った。

エ 課題

今後、更なる生徒数の減少期を迎えることから、3 コース（特進、総合・進学、美術）をどのように維持していくか、教育課程の見直しなど、中学生や保護者のニーズに対応できるような魅力ある学校づくりをさらに推進していく必要がある。具体的には進学実績への対応などがあるが本校らしさを失わないよう行っていきたい。「総合的な探究の時間」（西豆学）の見直しを図りながら引き続き校内で研修と情報交換を続け、改善を図っていく。

【令和6年度】

ア 研修の目的

地域の少子化と学校の大幅な定員割れを鑑み、連携中学に加え、他地区の生徒・保護者のニーズにも応えられるようにコース制の在り方と学校の魅力化、その方向性について共通理解を図る。また、県の指定により今後予定されている遠隔授業の導入に向けた準備、賀茂地区内の4校で研究する探究コンソーシアムの構築、さらに4校間連携の在り方について研究を進めるための研修を行う。過疎化が進む賀茂地区の4校には共通の課題があり、地域として課題の解決に向かう必要がある。特に、将来地域に貢献する生徒を育てるため、「総合的な探究の時間」を柱とすることができるよう、地域との連携、目標の共有を実現する。さらに Classi の機能を利用した業務改善に関する研修を行う予定である。

上記の内容に加え、学力向上、コンプライアンスの徹底などを目的に研修計画を立てた。

イ 研修内容

(ア) 確かな学力の育成と遠隔授業の導入に向けた研修

授業力の向上を目標に教員相互の積極的な授業参観の呼び掛け、授業改善を進める。具体的には授業研修週間を年間2回設け、公開授業と授業参観をする中で授業力の向上に努める。令和7年度からの遠隔授業導入に向けて、先進地域の視察を行い、その内容を全教職員に共有する。

(イ) 「総合的な探究の時間」に関する研修

地域に貢献する人材を育てるべく、より良い形の年間計画を構築する。松崎町 2030 プロジェクトにかかわる人々、静岡県立大学の教授・学生の支援を受けながら生徒個々の探究を深めていく。賀茂地区探究コンソーシアムの構築に向けて、先進地域の事例を視察し、校内で共有する。

(ロ) コンプライアンスに対する高い意識

管理職による不祥事根絶に関する情報提供と研修の機会を充実させる。不祥事の実例研究を学年ごとに行い、不祥事根絶に向けた意識の高揚を図っている。同時になんでも話せる職場の雰囲気づくりを心掛けている。

(ハ) 連携型中高一貫教育について

「中高一貫教育連絡協議会」の各委員会、教科部会を中心に中学校、高校の学習指導、6年間を見通した生徒指導、進路指導について研修を行っている。学習指導については授業研修会を軸に行っている。また、部活動の交流をより活発にするための方策を考え実現していく。教員数や生徒数が減少している中で、連携事業の見直しについても具体的に進めていく予定である。

ウ 成果

(ア) 確かな学力の育成

基礎基本の定着を中心に、各教科、教員が取り組みを続けている。各学期ごと、観点別評価について検討し、評価と一体化させた授業力の向上に努めている。

年間で2回の公開授業月間を設け、教科を超えて相互にできるだけ多くの回数、授業参観することを実践している。参観後にはコメントシートに記入し、授業者に手渡すなど授業改善につなげている。

遠隔授業導入に向けた研修は年度後半で行う予定である。

(イ) 「総合的な探究の時間」に関する研修

「総合的な探究の時間」の充実に向けて校内委員会を立ち上げ、行事の精選や各学年の総合的な探究の時間の在り方について研究している。先進事例の視察、その共有及び校内研修を今後行う予定である。

(ロ) コンプライアンスに対する高い意識

コンプライアンス通信を用いて月 1 回職員会議後に研修を行っている。日常的には新聞記事を利用して不祥事根絶に向けた啓蒙を行っている。

(エ) 連携型中高一貫教育について

部活動交流の活発化が進んだ。今後は連携事業の見直しを進めていく。

エ 課題

今後、更なる生徒数の減少期を迎えることから、3 コース（特進、総合・進学、美術）をどのように維持していくか、カリキュラムの研究が必要である。また「総合的な探究の時間」の本校らしいあり方、賀茂地区 4 校探究コンソーシアム構築に向けての研究、地域に貢献する人材の育成が課題である。

6 防災対策について

【令和 5 年度】

ア 目的

高校生が地域防災の担い手としての役割を果たせるよう、校内や地域で実施される避難訓練や防災訓練等に積極的に参加し、地震等災害時に地域を支える役割を担う自覚を持てるよう意識付けを図ると共に、普段から地震や津波発生時に自分の身の安全を守ることができる判断力と行動力を養う。

イ 取組内容及び成果

第 1 回目の訓練は、4 月 25 日（火）に実施した。巨大地震発生に伴う大津波警報発令を想定し、生徒の避難誘導と本部設営を行った。新入生や新任職員に避難方法を周知でき、従来の避難方法への意見を集めることもできた。帰宅カードの使い方についても説明した。

第 2 回の訓練は、6 月 15 日（木）に実施した。4 年度からの新しい取組として、豪雨災害時を想定して避難訓練を行った。

10 月 12 日（木）には 2 年生を対象に自衛隊による災害派遣の様子を伝える講話をいただいた。担架なしで人が人を運ぶ方法の実践は部活中のとっさの対応にも役立つものであった。またベッド付きの救護車や食事提供車両、給水車などを見学・乗車したことは被災地救護の様子を理解するのに大いに役立った。第 3 回の訓練は、11 月に防火訓練を実施し、煙の中を避難する体験を行った。

ウ 課題

生徒の災害に対する意識の低下を防ぐため、抜き打ちを含めた複数回の防災（避難）訓練を実施したことは防災に対する意識づけに効果が見られるため、今後も継続する必要があると考える。

事後アンケートで洗い出された問題点について、優先順位を付けて改善していきたい。

【令和6年度】

ア 目的

高校生が地域防災の担い手としての役割を果たせるよう、校内や地域で実施される避難訓練や防災訓練等に積極的に参加し、地震等災害時に地域を支える役割を担う自覚を持てるよう意識付けを図ると共に、普段から地震や津波発生時に自分の身の安全を守ることができる判断力と行動力を養う。

イ 取組内容及び成果

第1回目の訓練は、4月23日（火）に実施した。巨大地震発生に伴う大津波警報発令を想定し、生徒の避難誘導と本部設営を行った。新入生や新任職員に避難方法を周知でき、従来の避難方法への意見を集めることもできた。帰宅カードの使い方についても説明した。

第2回の訓練は、6月18日（火）に実施した。4年度からの新しい取組として、豪雨災害時を想定して避難訓練を行っている。

7月4日（木）には全校生徒を対象に自衛隊による災害派遣の様子を伝える講話をいただいた。担架なしで人が人を運ぶ方法の実践は部活中のとっさの対応にも役立つものであった。またベッド付きの救護車や食事提供車両、給水車などを見学・乗車することは被災地救護の様子を理解するのに大いに役立った。今年度は自衛隊により調理された防災食の試食を行い、被災時の行動理解につながった。今後、防火避難訓練を11月に行う予定である。

今年度は併設する伊豆の国特別支援学校伊豆松崎分校が実施する不審者対応訓練に参加し、校内の不審者対応マニュアルの作成に取り組んだ。

ウ 課題

生徒の災害に対する意識の低下を防ぐため、抜き打ちを含めた複数回の防災（避難）訓練を実施していることは防災に対する意識づけに効果が見られるため、今後も継続する必要があると考える。

7 学校開放について

ア 目的

学校施設を地域住民に開放し、地域のスポーツ活動及び文化活動の発展に寄与する。

イ 取組内容及び成果

令和5年度、令和6年度ともに年間を通して施設開放を行っている。

引続き、部活動の活動時間、学校行事と調整を取りながら学校の教育活動に支障のない範囲で開放していく。

(日／人)

		令和5年度		令和6年10月31日現在		備 考
施設名	利用種目	利用日数	利用者数	利用日数	利用者数	令和5年度 電気料 54,841 円
弓道場	弓 道	35	446	25	237	令和6年度 電気料 45,745 円
講 堂	合 気 道	40	202	19	107	
	剣 道	1	3	1	10	
グラウンド	陸 上	82	962	62	799	
セミナーハウス	会 議	2	70			
合 計		160	1,683	107	1,153	

ウ 課題

一部施設では老朽化が進んでおり、修繕工事等を計画的に行っている。安全面も考慮しながら、開放できる施設を検討していく。

事務執行の根拠法令調

項 目	根 拠 法 令
1 学校教育に関する こと	教育基本法（第1条、第2条） 学校教育法（第1条、第2条、第3条、第50条、第51条、第52条、第60条） 学校教育法施行規則 静岡県立学校設置条例 静岡県立高等学校学則 高等学校学習指導要領 理科教育振興法（第11条） 理科教育振興法施行令 学校保健安全法（第5条）
2 学校の管理・運営 に関すること	学校教育法（第137条） 地方教育行政の組織及び運営に関する法律（第33条） 静岡県立学校管理規則 教育公務員特例法（第21条、第22条） 学校保健安全法（第15条、第27条） 静岡県教育委員会職員安全衛生管理規程 いじめ防止対策推進法（第8条） 静岡県立学校の施設等の開放に関する要綱 学校図書館法（第3条、第4条） 静岡県教育委員会処務規程 静岡県教育委員会事務決裁規程 静岡県立学校の授業料等の徴収に関する条例 静岡県立学校授業料等徴収規則 静岡県手数料徴収条例 高等学校等就学支援金の支給に関する法律 高等学校等就学支援金の支給に関する法律施行令 高等学校等就学支援金の支給に関する法律施行規則 高等学校遠距離通学費補助金交付要綱 高等学校等修学支援事業補助金（奨学のための給付金）交付要綱 静岡県高等学校等教育資金及び高等学校等奨学金貸与規則 静岡県情報公開条例施行規則 独立行政法人日本スポーツ振興センター法（第16条、第17条） 社会教育法（第43条、第44条、第45条、第47条）

□□□□□□

学 校 施 設 の 概 要

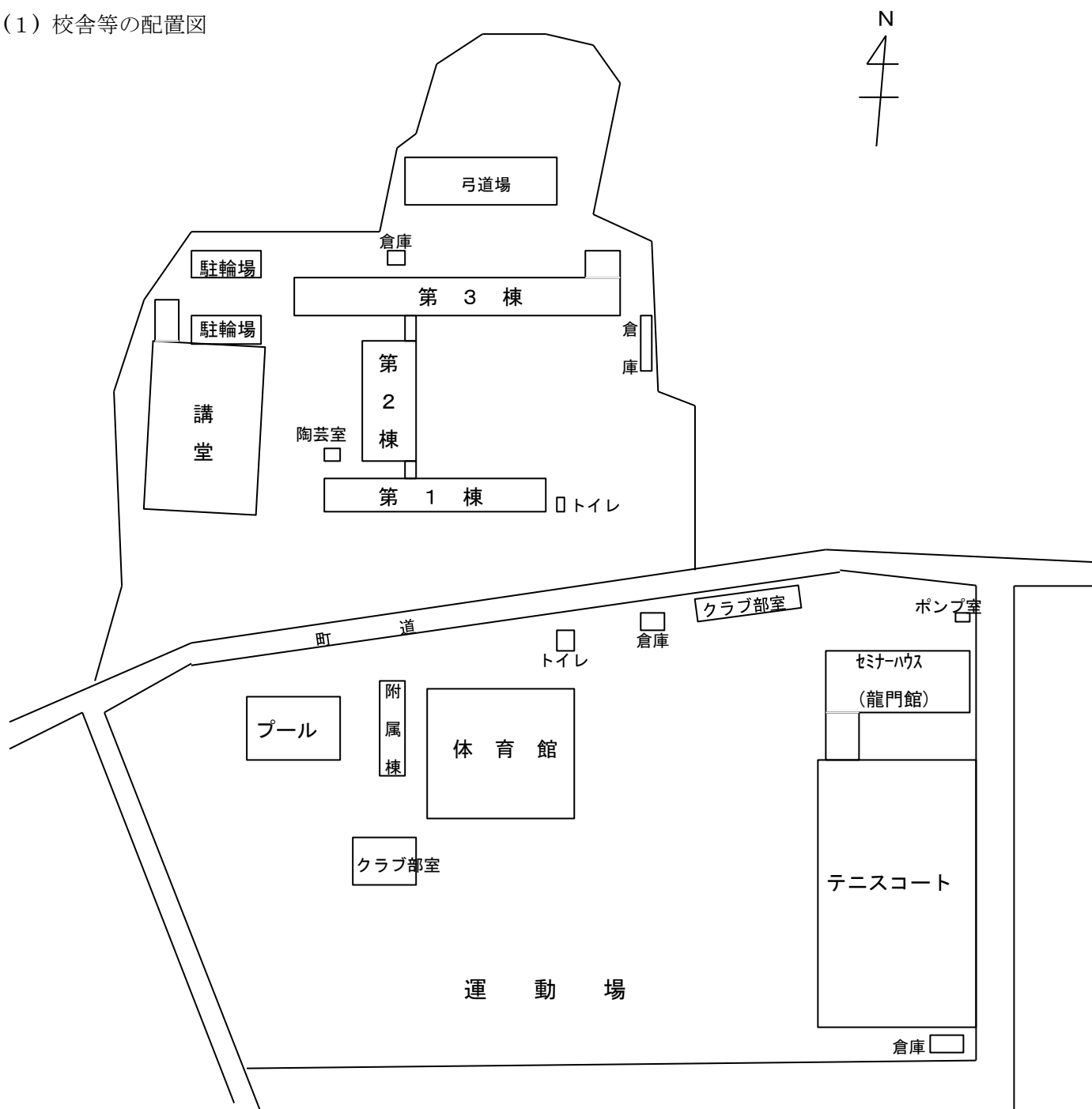
1 面積及び所有区分

(令和6年10月31日現在)

区 分	面 積 m ²	所 有 内 訳					摘 要
		県 有 m ²	国 有 m ²	市町村有 m ²	後援会有 m ²	民 有 m ²	
学 校 敷 地	46,088.41	46,088.41					
内 訳	校 舎 敷 地	26,611.81	26,611.81				
	運 動 場 敷 地	19,476.60	19,476.60				
	そ の 他 の 敷 地						
校 舎	建 1,755.02	1,755.02					
	延 6,379.65	6,379.65					
体 育 館	建 2,445.93	2,445.93					
	延 2,754.68	2,754.68					
そ の 他 の 建 物	建 1,213.16	908.60			304.56		弓道場・体育部室
	延 1,222.88	908.60			314.28		
セミナーハウス	建 682.23	682.23					
	延 951.71	951.71					
プ ー ル	1 式	1 式					25m×15m
職 員 住 宅	32 戸	32 戸					

2 配置・規模等

(1) 校舎等の配置図



(2) 学校施設の規模等（法面・演習林等を除く）

区 分	学校敷地面積	校舎延面積	運動場面積
当 校	46,088.41 m ²	6,379.65 m ²	19,476.60 m ²
県 平 均	45,574.48 m ²	9,807.98 m ²	22,506.84 m ²

□□□□□□

在 籍 生 徒 調

(令和6年10月31日現在)

学 年	学 科 別 区 分		全 日 制 普 通 科			
			定 員	男 子	女 子	計
1 年	入 学 者		80	21	15	36
		増 加		1	1	
		減 少				
	現 在			21	16	37
2 年	入 学 者		80	36	27	63
		増 加		1		1
		減 少		1		1
	2 年 時 当 初			36	27	63
		増 加				
		減 少		1	1	2
	現 在			35	26	61
3 年	入 学 者		80	32	25	57
		増 加				
		減 少		1		1
	2 年 時 当 初			31	25	56
		増 加				
		減 少				
	3 年 時 当 初			31	25	56
		増 加				
		減 少			1	1
現 在		31	24	55		
合 計				87	66	153

□□□□□□

入学志願者及び入学者数調

区 分		2 年度	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度
学 科 別		普通科	普通科	普通科	普通科	普通科
生徒定員 (A)		80	80	80	80	80
募集者数 (B)		80	80	80	80	80
志願者数	男	42 (0)	35 (0)	32 (0)	35 (1)	21 (0)
	女	34 (0)	38 (0)	25 (0)	27 (0)	15 (1)
	計 (C)	76 (0)	73 (0)	57 (0)	62 (1)	36 (1)
受検者数	男	42 (0)	35 (0)	32 (0)	35 (1)	21 (0)
	女	34 (0)	38 (0)	25 (0)	27 (0)	14 (1)
	計 (D)	76 (0)	73 (0)	57 (0)	62 (1)	35 (1)
合格者数	男	42 (0)	35 (0)	32 (0)	35 (1)	21 (0)
	女	34 (0)	38 (0)	25 (0)	27 (0)	14 (1)
	計 (E)	76 (0)	73 (0)	57 (0)	62 (1)	35 (1)
志願倍率 (C)/(B)		0.95	0.91	0.71	0.78	0.45
受検倍率 (D)/(B)		0.95	0.91	0.71	0.78	0.44
入学者数	男	42	35	32	36	21
	女	34	38	25	27	15
	計 (F)	76	73	57	63	36
充足率 (F)/(A)		0.95	0.91	0.71	0.79	0.45

□□□□□□

卒業生の動向調

1 進路状況

学 科 別		全日制普通科		
年 度		3 年度	4 年度	5 年度
卒 業 生 徒 数		69	72	71
内 訳	(進 学 志 願 者)	(41)	(44)	(52)
	進 大 学 ・ 短 大	25	17	18
	専修・各種学校等	16	27	34
	小 計	41	44	52
	就 職 者	27	25	15
	自 営 者	0	0	1
	進 学 準 備 者	0	1	2
	そ の 他	1	2	1
合 計		69	72	71

2 求人状況

区 分	3 年度	4 年度	5 年度
就職希望者数	27	25	15
求 人 数	771	790	800
求 人 倍 率	28.6	31.6	53.3

3 資格取得状況

(令和5年度)

学 科 別	全日制普通科
卒 業 生 徒 数	71
日本英語検定協会実用英語技能検定 準1級	1
日本英語検定協会実用英語技能検定 2級	5
日本英語検定協会実用英語技能検定 準2級	7
日本漢字能力検定協会漢字検定 2級	1
日本漢字能力検定協会漢字検定 準2級	2
日本情報処理検定協会情報処理技能検定 (表計算) 2級	1
日本情報処理検定協会情報処理技能検定 (表計算) 準2級	2
日本情報処理検定協会文章入力スピード認定試験 2級	1
日本情報処理検定協会文章入力スピード認定試験 準2級	2
Literas 論理言語力検定 2級	29
Literas 論理言語力検定 準2級	12
合 計	63

生徒の状況

1 生徒の出身地域及び通学方法

(1) 出身地 (令和6年10月31日現在) (単位: 人)

市 町 名	松崎町	西伊豆町	南伊豆町	下田市	その他	合 計
生 徒 数	61	61	26	3	2	153
構 成 比 %	39.9%	39.9%	17.0%	1.9%	1.3%	100%

(2) 通学方法 (令和6年10月31日現在) (単位: 人)

区 分	バス	自転車	徒歩	その他	合 計
生 徒 数	51	44	22	36	153
構 成 比 %	33.3%	28.8%	14.4%	23.5%	100%

2 部(クラブ)の加入状況

(令和6年10月31日現在) (単位: 人)

区 分		運 動 部	文 化 部	未加入者	計
部(クラブ)数		7	3		10
男子	1 年	16	5	0	21
	2 年	25	10	0	35
	3 年	23	8	0	31
	計(A)	64	23	0	87
	構成比	73.6%	26.4%	0%	100%
女子	1 年	11	5	0	16
	2 年	10	16	0	26
	3 年	8	16	0	24
	計(B)	29	37	0	66
	構成比	43.9%	56.1%	0%	100%
合計	(A+B)	93	60	0	153
	構成比	60.8%	39.2%	0%	100%

□□□□□□

(全日制)

授業料収納状況調

(令和5年度)

期 別	月 別	調定の状況								収納の状況				異動者等の状況
		1年		2年		3年		計		納期内収納額		納期後	収 入	
		人員	調定額	人員	調定額	人員	調定額	人員	調定額		収納率	収納額	未済額	
一期	4	人	円	人	円	人	円	人	円	円	%	円	円	A. 期首収納権利発生額＝356,400円 (1年 7人×9,900×3月) (2年 3人×9,900×3月) (3年 2人×9,900×3月) B. 収納権利増減(▲)額＝▲29,700円 (内訳) 7月26日:1年:就学支援金認定▲1人 1人×9,900×3月＝▲29,700円 C. 収納必要額A(±)B＝326,700円
	5													
	6													
	7	7	207,900	3	89,100	2	59,400	12	356,400	297,000	83.3	0	59,400	
	8	▲1	▲29,700					▲1	▲29,700			29,700	0	
	計	6	178,200	3	89,100	2	59,400	11	326,700	297,000	90.9	29,700	0	
二期	7													A. 期首収納権利発生額＝841,500円 (1年 10人×9,900×5月) (2年 5人×9,900×5月) (3年 2人×9,900×5月) B. 収納権利増減(▲)額＝0円 C. 収納必要額A(±)B＝841,500円
	8													
	9													
	10	10	495,000	5	247,500	2	99,000	17	841,500	841,500	100	0	0	
	11													
	計	10	495,000	5	247,500	2	99,000	17	841,500	841,500	100	0	0	
三期	12													A. 期首収納権利発生額＝673,200円 (1年 10人×9,900×4月) (2年 5人×9,900×4月) (3年 2人×9,900×4月) B. 収納権利増減(▲)額＝0円 C. 収納必要額A(±)B＝673,200円
	1	10	396,000	5	198,000	2	79,200	17	673,200	514,800	76.5	0	158,400	
	2											158,400	0	
	3													
	計	10	396,000	5	198,000	2	79,200	17	673,200	514,800	76.5	158,400	0	
合 計		26	1,069,200	13	534,600	6	237,600	45	1,841,400	1,653,300	89.8	188,100	0	D. 収納必要額＝1,841,400円

□□□□□□

(全日制)

授業料収納状況調

(令和 6 年度)
(令和 6 年10月31日現在)

期 別	月 別	調定の状況								収納の状況				異動者等の状況
		1 年		2 年		3 年		計		納期内収納額		納期後	収 入	
		人員	調定額	人員	調定額	人員	調定額	人員	調定額		収納率	収納額	未済額	
一 期	4	人	円	人	円	人	円	人	円	円	%	円	円	A. 期首収納権利発生額＝564,300円 (1年 5人×9,900×3月) (2年 9人×9,900×3月) (3年 5人×9,900×3月) B. 収納権利増減(▲)額＝0円 C. 収納必要額A(±)B＝564,300円
	5													
	6													
	7	5	148,500	9	267,300	5	148,500	19	564,300	534,600	94.7	0	29,700	
	8											29,700	0	
	計	5	148,500	9	267,300	5	148,500	19	564,300	534,600	94.7	29,700	0	
二 期	7													A. 期首収納権利発生額＝574,200円 (1年 2人×9,900×5月) (1年 1人×9,900×3月) (2年 6人×9,900×5月) (3年 3人×9,900×5月) B. 収納権利増減(▲)額＝0円 C. 収納必要額A(±)B＝574,200円
	8													
	9													
	10	3	128,700	6	297,000	3	148,500	12	574,200	524,700	91.4	0	49,500	
	11											49,500	0	
	計	3	128,700	6	297,000	3	148,500	12	574,200	524,700	91.4	49,500	0	
三 期	12													
	1													
	2													
	3													
	計													
合 計		8	277,200	15	564,300	8	297,000	31	1,138,500	1,059,300	93.0	79,200	0	D. 収納必要額＝1,138,500円

□□□□□□□

県収入証紙により徴収した使用料及び手数料調

区 分	令和 5 年度	令和 6 年度 (令和 6 年10月31日現在)
	件 数	件 数
入 学 検 定 料	38	1

□□□□□□□

預 金 調

(令和6年10月31日現在)

金融機関名	預金種類	口座番号	口座名義人	残高 (円)	摘 要
スルガ銀行 松崎支店	無利息型 普通預金	□□□□□□□	松崎高等学校 資金前渡者 八代弘和	0	給与等振替 口座
スルガ銀行 松崎支店	無利息型 普通預金	□□□□□□□	(自振口)松崎高等学校 資金前渡者 松崎高等学校長 八代弘和	0	公共料金自動 振替口座
残 高 合 計				0	

□□□□□□□

郵 券 等 受 払 調

(令和6年10月31日現在)

(単位：枚、円)

区分	種類	令和5年度						令和6年度								摘要
		繰越		受入		払出		繰越		受入		払出		差引現在高		
		枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	
有料道路 回数券等	修善寺道路 伊豆中央道	135	13,500	0	0	27	2,700	108	10,800	0	0	4	400	104	10,400	出張 用
計		135	13,500	0	0	27	2,700	108	10,800	0	0	4	400	104	10,400	

□□□□□

歳入歳出外現金調

(令和5年度)

区 分	越 高	受 高	払 高	残 高	摘 要
公立学校共済組合掛金等	0	270,470	270,470	0	
教職員互助組合掛金等	0	9,698	9,698	0	
所得税	13,579	249,600	252,398	10,781	
保証金	88,400	76,780	0	165,180	
計	101,979	606,548	532,566	175,961	

□□□□□

歳入歳出外現金調

(令和6年度)

(令和6年10月31日現在)

区 分	越 高	受 高	払 高	残 高	摘 要
公立学校共済組合掛金等	0	169,800	169,800	0	
教職員互助組合掛金等	0	6,264	6,264	0	
所得税	10,781	86,907	88,198	9,490	
県市町村民税	0	4,900	3,900	1,000	
保証金	165,180	0	88,480	76,780	
計	175,961	267,871	356,562	87,270	

□□□□□□□□

委託料等歳出予算執行状況節別集計表

節 名	会計	款	項	目	執 行 済 額 (円)		
					4 年度	5 年度	左のうち、4 年度からの繰 越額分
(12) 委託料	一般	教育費	教育委員会費	教育管理費		19,800	
	一般	教育費	高等学校費	高等学校管理費		353,980	
計					352,264	373,780	0
(14) 工事請負費	一般	教育費	教育委員会費	教育管理費		6,534,000	
計					594,000	6,534,000	0
(16) 公有財産購入費						0	
計					0	0	0
(17) 備品購入費	一般	教育費	高等学校費	高等学校管理費		144,100	
	一般	教育費	学校教育費	高校教育費		564,300	
計					792,660	708,400	0
(18) 負担金、補助及び交付金	一般	教育費	高等学校費	高等学校管理費		20,827,700	
計					22,641,400	20,827,700	0
(21) 補償、補填及び賠償金						0	
計					0	0	0

□□□□□□□□

委託料等歳出予算執行状況節別集計表

(令和6年10月31日現在)

節 名	会計	款	項	目	執 行 済 額 (円)	
						左のうち、5年度からの繰越額分
(12) 委託料	一般	教育費	教育委員会費	教育管理費	9,900	0
	一般	教育費	高等学校費	高等学校管理費	344,618	0
計					354,518	0
(14) 工事請負費	一般	教育費	教育委員会費	教育管理費	2,981,000	2,902,900
計					2,981,000	2,902,900
(16) 公有財産購入費					0	0
計					0	0
(17) 備品購入費	一般	教育費	高等学校費	高等学校管理費	253,000	0
計					253,000	0
(18) 負担金、補助及び交付金	一般	教育費	高等学校費	高等学校管理費	11,006,900	0
計					11,006,900	0
(21) 補償、補填及び賠償金					0	0
計					0	0

□□□□□□

委 託 料 に 関 す る 調

(令和5年度)

整理 番号	委 託 業務名	受託者	当 初 設計金額	契 約 金 額			契約 締結 方法	契約期間	支 出 年月日	金 額	委託業務 の 内 容	摘 要
				当 初 額	変 更 増減額	計						
1	(事務関係) 消防用設備等点検業務	(株)藤興産	円 19,800	円 19,800	円 0	円 19,800	随契	5.4.12 ～ 6.3.31	5.9.28 6.3.22 小 計	円 9,900 9,900 19,800	職員住宅 消防設備 等点検	随契1号 (少額)
2	浄化槽保守点検業務	(株)栄協	119,680	119,680	0	119,680	随契	5.4.1 ～ 6.3.31	6.4.12	119,680	浄化槽維持管理	随契1号 (少額)
3	プール浄化装置保守点検業務	(有)山静商会	135,300	135,300	0	135,300	随契	5.4.19 ～ 5.10.31	5.11.13	135,300	賀茂地区 3校の プール浄 化装置保 守点検	随契1号 (少額) 松崎高校 下田高校 稲取高校
4	産業廃棄物収集・運搬及び処分業務	セキトラ ンスシス テム(株)	99,000	99,000		99,000	随契	6.1.15 ～ 6.3.31	6.3.14	99,000	産業廃棄 物収集・ 運搬及び 処分	随契1号 (少額)
	事務関係計	4 件	373,780	373,780	0	373,780				373,780		
	合 計	4 件	373,780	373,780	0	373,780				373,780		
参考 1	消防用設備等保守点検業務	(株)藤興産		1,826,000	0	1,826,000		5.4.1 ～ 6.3.31			下田高校 外3校の 消防用設 備等保守 点検	下田高校
参考 2	自家用電気工作物保安管理業務	一般財団法人 関東電気保 安協会沼津 営業本部		1,133,880	0	1,133,880		5.4.1 ～ 6.3.31			下田高校 外3校の 自家用電 気工作物 保安管理	下田高校
参考 3	警備業務	セコム(株)		3,484,800	0	3,484,800		元.10.1 ～ 6.9.30			稲取高校 外5校の 機械警備	稲取高校
参考 4	建築基準法第12条に基づく定期点検業務委託	(有)コーセイ産業		1,130,690	0	1,130,690		5.8.1 ～ 5.10.31			下田熱海 地区6校 の建基法 第12条に 基づく定 期点検	下田高校
	計	4 件		7,575,370	0	7,575,370						

□□□□□□

委 託 料 に 関 す る 調

(令和 6 年度)
(令和 6 年10月31日現在)

整理 番号	委 託 業務名	受託者	当 初 設計金額	契 約 金 額			契約 締結 方法	契約期間	支 出 年月日	金 額	委託業務 の 内 容	摘 要
				当 初 額	変 更 増減額	計						
1	(事務関係) 消防用設備等点検業務	(株)藤興産業	円 19,800	円 19,800	円 0	円 19,800	随契	6.4.25 ～ 7.3.31	6.9.6	円 9,900	職員住宅 消防設備 等点検	随契1号 (少額)
2	浄化槽保守点検業務	(有)南豆浄化槽管理センター	132,000	132,000	0	132,000	随契	6.4.1 ～ 7.3.31			浄化槽維持管理	随契1号 (少額)
3	自家用電気工作物保安管理業務	兼臣電気管理事務所	598,400	598,400	46,200	644,600	随契	6.4.1 ～ 7.3.31	6.5.9 6.6.10 6.7.11 6.8.14 6.9.18 6.10.11 小計	49,870 49,870 49,870 55,000 55,000 55,000 314,610	自家用電気工作物 保安管理	随契1号 (少額)
4	プール浄化装置保守点検業務	(有)山静商会	135,300	135,300	0	135,300	随契	6.4.25 ～ 6.10.31			賀茂地区 3校の プール浄 化装置保 守点検	随契1号 (少額) 松崎高校 下田高校 稲取高校
5	産業廃棄物収集・運搬及び処分業務	(株)ホクセイ	30,316	30,316	0	30,316	随契	6.9.25 ～ 6.11.25	6.10.31	30,008	産業廃棄物収集・ 運搬及び 処分	随契1号 (少額) 概算所要
6	産業廃棄物収集・運搬及び処分業務	セキトラ ンスシス テム(株)	99,000	99,000	0	99,000	随契	6.9.20 ～ 7.2.28			産業廃棄物収集・ 運搬及び 処分	随契1号 (少額)
	事務関係計	6 件	1,014,816	1,014,816	46,200	1,061,016				354,518		
	合 計	6 件	1,014,816	1,014,816	46,200	1,061,016				354,518		
参考 1	消防用設備等保守点検業務	(株)藤興産業		1,859,000	0	1,859,000		6.4.1 ～ 7.3.31			下田高校 外3校の 消防用設備等保守 点検	下田高校
参考 2	警備業務	セコム(株)		3,484,800	0	3,484,800		元.10.1 ～ 6.9.30			稲取高校 外5校の 機械警備	稲取高校
参考 3	警備業務	セコム(株)		11,550,000	0	11,550,000		6.10.1 ～ 11.9.30			稲取高校 外5校の 機械警備	稲取高校
参考 4	建築基準法第12条に基づく定期点検業務委託	(有)コーセイ産業		2,023,780	0	2,023,780		6.7.18 ～ 6.10.31			下田熱海 地区6校 の建基法 第12条に 基づく定 期点検	伊豆伊東 高校
	計	4 件		18,917,580	0	18,917,580						

□□□□□□

負 担 金 支 出 調

(令和5年度)

整理 番号	負 担 金 名	交 付 先	負担根拠	事業内容	負担金額	支 出 年月日
1	全国高等学校長協会総会・研究協議会	全国高等学校長協会	開催要項	総会・研究協議会 参加費1人分	2,000	5.5.9
2	全国高等学校教頭・副校長総会・研究協議会	全国高等学校教頭・副校長会総会及び研究協議大会愛知大会運営委員長	開催要項	総会・研究協議会 参加費1人分	4,000	5.6.13
3	東海四県高等学校長生徒指導連絡協議会	東海四県高等学校長生徒指導連絡協議会会長	開催要項	連絡協議会 参加費1人分	2,000	5.7.26
4	高等学校等就学支援金	全日制高等学校授業料 (第1期分178名分)	高等学校等就学支援金の支給に関する法律	高等学校に在籍する生徒の授業料に充てる	5,286,600	5.7.31
5	高等学校等就学支援金	全日制高等学校授業料 (第1期分1名分)	高等学校等就学支援金の支給に関する法律	高等学校に在籍する生徒の授業料に充てる	29,700	5.8.14
6	高等学校等就学支援金	全日制高等学校授業料 (第2期分174名分)	高等学校等就学支援金の支給に関する法律	高等学校に在籍する生徒の授業料に充てる	8,613,000	5.10.31
7	高等学校等就学支援金	全日制高等学校授業料 (第3期分174名分)	高等学校等就学支援金の支給に関する法律	高等学校に在籍する生徒の授業料に充てる	6,890,400	6.1.31
計		7件			20,827,700	

□□□□□□

負 担 金 支 出 調

(令和6年度)

(令和6年10月31日現在)

整理 番号	負 担 金 名	交 付 先	負担根拠	事業内容	負担金額	支 出 年月日
1	全国高等学校長協会総会・研究協議会	全国高等学校長協会	開催要項	総会・研究協議会 参加費1人分	4,000	6.4.30
2	東海四県高等学校長連絡協議会・研究協議会	東海四県高等学校長連絡協議会会長	開催要項	連絡協議会・研究協議会 参加費1人分	2,000	6.7.9
3	東海四県高等学校長生徒指導連絡協議会	静岡県高等学校長協会生徒指導専門委員長	開催要項	連絡協議会 参加費1人分	2,000	6.7.31
4	高等学校等就学支援金	全日制高等学校授業料 (第1期分135名分)	高等学校等就学支援金の支給に関する法律	高等学校に在籍する生徒の授業料に充てる	4,009,500	6.8.1
5	高等学校等就学支援金	全日制高等学校授業料 (第2期分142名分)	高等学校等就学支援金の支給に関する法律	高等学校に在籍する生徒の授業料に充てる	6,989,400	6.10.31
計		5件			11,006,900	

□□□□□□

建 築 工

整理 番号	予算科目	工 事 名	工事箇所	当初設計金額	契 約 金	
					当初額	変更増減額
				円	円	円
1	教育管理費	テニスコート 西側フェンス 一部撤去工事	賀茂郡松崎町 桜田地内	649,000	649,000	0
2	教育管理費	自動火災報知 設備更新工事	賀茂郡松崎町 桜田地内	2,992,000	2,902,900	0
3	教育管理費	防火戸改修工 事	賀茂郡松崎町 桜田地内	3,487,000	3,465,000	0
4	教育管理費	体育館南側排 煙オペレー ター修繕工事	賀茂郡松崎町 桜田地内	2,475,000	2,420,000	0
		合 計	4 件	9,603,000	9,436,900	0

(参考)

整理 番号	予算科目	工 事 名	工事箇所	当初設計金額	契 約 金	
					当初額	変更増減額
				円	円	円
1	教育管理費	新体育館消火 設備更新工事	賀茂郡松崎町 桜田地内	15,917,000	15,070,000	3,102,000
		合 計	1件	15,917,000	15,070,000	3,102,000

事 調

(令和5年度)

額	契約締結方法	受注者	着手完成(予定)年月日	支出済額	工事概要	公有財産台帳	摘 要
計							
円				円			
649,000	随契	河津建設(株)	5.11.10 ～ 6.1.17	649,000	既存フェンス一部撤去 既存外灯撤去(フェンス取合部)	済	令達年月日 5.10.26 最終支払年月日 6.2.13 随契1号(少額)
2,902,900	指名	(株)藤興産	5.12.4 ～ 6.5.31	0	受信機、表示機、炎感知器7台更新 プロテクター1箇所更新 避雷ユニット新設 共通線2箇所増設	予	令達年月日 5.11.20 最終支払年月日 令和5年度繰越 56.57頁/1
3,465,000	指名	河津建設(株)	5.12.13 ～ 6.3.26	3,465,000	防火戸改修(第1棟1階廊下、第3棟2階トイレ横)	—	令達年月日 5.11.21 最終支払年月日 6.4.30
2,420,000	随契	伊藤建設工業(株)	6.1.11 ～ 6.3.15	2,420,000	ハンドル開閉式排煙オペレーター修繕 防球ネット張替え	—	令達年月日 5.12.22 最終支払年月日 6.3.29 随契1号(少額)
9,436,900				6,534,000			

額	契約締結方法	受注者	着手完成(予定)年月日	支出済額	工事概要	公有財産台帳	摘 要
計							
円				円			
18,172,000	一般	ヤマト設備工業(株)	4.10.18 ～ 5.6.20	18,172,000	新体育館消火用水槽及び屋内消火栓ポンプの更新工事	済	設備課 令達年月日 4.9.2 最終支払年月日 5.7.24
18,172,000				18,172,000			

□□□□□□

建 築 工

整理 番号	予算科目	工 事 名	工事箇所	当初設計金額	契 約 金	
					当初額	変更増減額
				円	円	円
1	教育管理費	自動火災報知 設備更新工事	賀茂郡松崎町 桜田地内	2,992,000	2,902,900	78,100
2	教育管理費	体育館バス ケットゴール 撤去工事	賀茂郡松崎町 桜田地内	1,188,000	1,177,000	0
		合 計	2 件	4,180,000	4,079,900	78,100

(参考)

整理 番号	予算科目	工 事 名	工事箇所	当初設計金額	契 約 金	
					当初額	変更増減額
				円	円	円
1	教育管理費	松崎高等学校 講堂修繕工事	賀茂郡松崎町 桜田地内	4,510,000	4,400,000	0
		合 計	1 件	4,510,000	4,400,000	0

事 調

(令和 6 年度)
(令和 6 年10月31日現在)

額	契約締結方法	受注者	着手完成 (予定) 年月日	支出済額	工事概要	公有財産 台帳	摘 要
計							
円 2,981,000	指名	(株)藤興産	5.12.4 ～ 6.5.27	円 2,981,000	受信機、表示機、 炎感知器7台更新 プロテクター1箇所更新 避雷ユニット新設 共通線2箇所増設	済	令達年月日 5.11.20 最終支払年月日 6.6.13 令和5年度繰越 56.57頁/1
1,177,000	随契	河津建設 (株)	6.10.7 ～ 6.11.29	0	体育館折畳式 バスケットゴール撤去2対 下地状況確認 壁復旧	—	令達年月日 6.9.18 最終支払年月日 随契1号 (少額)
4,158,000				2,981,000			

額	契約締結方法	受注者	着手完成 (予定) 年月日	支出済額	工事概要	公有財産 台帳	摘 要
計							
円 4,400,000	指名	伊藤建設 工業(株)	6.9.10 ～ 6.12.11	円 1,760,000	内外壁クラック補修、アリーナ2階内 壁落下防止網設置ほか	—	下田土木事務所 令達年月日 6.8.15 最終支払年月日
4,400,000				1,760,000			

□□□□□□

繰越工

整理 番号	予算科目	事業（箇所）名 及び内訳	事業個所	契 約 額	前年度施行 支払額	繰 越 額
1	教育管理費	自動火災報知設 備更新工事	賀茂郡松崎町 桜田地内	2,981,000円	0円	2,981,000円
		合 計		2,981,000円	0円	2,981,000円

事 調

(令和5年度から令和6年度へ繰越分)
(令和6年10月31日現在)

同左支出済額	支出未済額	契約締結方法	受注者 (受託者)	着手完成 (予定) 年月日	繰越理由
2,981,000円	0円	指名	(株)藤興産	5.12.4 ～ 6.5.27	消防署の指導により、内部共通線が規定の警戒数を超える配線になっており規定内に収めるよう指示があり、調査及び配線の引き伸ばし工事が追加されたため。
2,981,000円	0円				

□□□□□□

公 有 財 産 調

(令和5年度)

区 分	令和5年3月31日現在		増		減		令和6年3月31日現在		摘要
	数 量 又 は 面 積	台帳価格	数量又 は面積	台帳価格	数量又 は面積	台帳価格	数 量 又 は 面 積	台帳価格	
行 政 財 産		千円 1,762,632		千円 16,322		千円 18,633		千円 1,760,321	
土 地	m ² 46,088.41	1,552,085					m ² 46,088.41	1,552,085	
立 木 竹	本 92	1,768			2	28	本 90	1,740	
建 物	m ² 5,791.78 10,994.64	188,967	—		—	15,339	m ² 5,791.78 10,994.64	173,628	
工 作 物	個 94	19,812	1	16,322	1	3266	個 94	32,868	
普 通 財 産		233,930				8,652		225,278	
土 地	m ² 3,118.16	115,838					m ² 3,118.16	115,838	
建 物	m ² 585.89 1,524.33	117,558	—		—	8,118	m ² 585.89 1,524.33	109,440	
工 作 物	個 9	534				534	個 9	0	
公有財産に準ずるもの		146						146	
電 話 加 入 権	件 5	146					件 5	146	

□□□□□□

公 有 財 産 調

(令和6年度)
(令和6年10月31日現在)

区 分	令和6年3月31日現在		増		減		令和6年10月31日現在		摘要
	数 量 又 は 面 積	台帳価格	数量又 は面積	台帳価格	数量又 は面積	台帳価格	数 量 又 は 面 積	台帳価格	
行 政 財 産		千円 1,760,321		千円 2,931		千円		千円 1,763,252	
土 地	m ² 46,088.41	1,552,085					m ² 46,088.41	1,552,085	
立 木 竹	本 90	1,740					本 90	1,740	
建 物	m ² 5,791.78 — 10,994.64	173,628	—		—		m ² 5,791.78 — 10,994.64	173,628	
工 作 物	個 94	32,868	3	2,931			個 97	35,799	
普 通 財 産		225,278						225,278	
土 地	m ² 3,118.16	115,838					m ² 3,118.16	115,838	
建 物	m ² 585.89 — 1,524.33	109,440	—		—		m ² 585.89 — 1,524.33	109,440	
工 作 物	個 9	0					個 9	0	
公有財産に準ずるもの		146						146	
電 話 加 入 権	件 5	146					件 5	146	

□□□□□□

借 地 借 家 等 調

(令和6年10月31日現在)

整理 番号	区分	種別	所 在 地	地 目		数 量 又 は 面 積	借 料		契約期間	所有者又は 契約者氏名	用 途
				台帳	現況		単価	年額			
1	建物	雑屋建	賀茂郡松崎町桜田188	軽量鉄骨造 2階建 スレート葺		m ² 197.64 207.36	円	無償	2.4.1 ～ 7.3.31	静岡県立松崎高等学校 PTA会長	弓道場
2	建物	倉庫建	賀茂郡松崎町桜田188	コンクリートブロック造 平屋建 折板葺		m ² 106.92 106.92		無償	2.4.1 ～ 7.3.31	静岡県立松崎高等学校 PTA会長	体育部室
	建 物 計					m ² 304.56 314.28		0			
3	工作物	冷暖房 装置	賀茂郡松崎町桜田188			1 個		3,792,693	3.7.1 ～ 16.6.30	三井住友ファイナンス & リース株式会社	普通教室空調
4	工作物	冷暖房 装置	賀茂郡松崎町桜田188			1 個		2,940,644	6.7.1 ～ 19.6.30	NTT・TCリース株 式会社 静岡支店	特別教室空調
5	工作物	冷暖房 装置	賀茂郡松崎町桜田188			1 個		無償	6.7.1 ～ 7.3.31	静岡県立松崎高等学校 PTA会長	小会議室空調
	工作物計					3 個		6,733,337			

□□□□□□□□

事務機器等の債務負担行為又は長期継続契約に係る調

(令和 6 年度)

(令和 6 年10月31日現在)

区分	事業名又は契約名	内 容	契約額	(契約額の年度別内訳)				
				元年度	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度
長期継続契約	電子複写機賃借契約	電子複写機 2 台 (契約日) 平成31年 4 月 1 日	1, 005, 393	円 199, 613	円 201, 445	円 201, 445	円 201, 445	円 201, 445

区分	事業名又は契約名	内 容	契約額	(契約額の年度別内訳)				
				6 年度	7 年度	8 年度	9 年度	10年度
長期継続契約	電子複写機賃借契約	電子複写機 2 台 (契約日) 令和 6 年 4 月 1 日	680, 790	円 136, 158	円 136, 158	円 136, 158	円 136, 158	円 136, 158

行政財産貸付・使用許可調

(令和6年10月31日現在)

整理 番号	区分	種別	所在地	地 目		数量又は 面 積	貸付料又は 使用料		貸付又は 使用許可 期 間	貸付又は使用許可 を受けた者の氏名	貸付・使用許可 目 的
				台帳	現況		単価	年額			
1	土地	学校敷地	賀茂郡松崎町 桜田188	学 校 敷 地	学 校 敷 地	電柱 5本 支線 11条	1,500	円 24,000	4.4.1 ～ 9.3.31	東京電力パワーグリッド ㈱伊豆支社長	一般電力供給用
2	土地	学校敷地	賀茂郡松崎町 桜田188	学 校 敷 地	学 校 敷 地	支柱 1本 支線柱 1本 支線 1条	1,500	4,500	2.4.1 ～ 7.3.31	西日本電信電話㈱ 静岡支店長	公衆電気通信線路 用
3	土地	学校敷地	賀茂郡松崎町 桜田188	学 校 敷 地	学 校 敷 地	m ² 17.00 38m(外径0.1m)		9,630	6.4.1 ～ 7.3.31	国立大学法人 東京大学地震研究所 事務長	地震観測点敷地 ケーブル敷地
4	土地	学校敷地	賀茂郡松崎町 桜田188	学 校 敷 地	学 校 敷 地	m ² 106.92		免除	2.4.1 ～ 7.3.31	静岡県立松崎高等学校 PTA会長	体育部室敷地
5	土地	学校敷地	賀茂郡松崎町 桜田188	学 校 敷 地	学 校 敷 地	m ² 197.64		免除	2.4.1 ～ 7.3.31	静岡県立松崎高等学校 PTA会長	弓道場敷地
6	土地 建物	学校敷地 事務所建	賀茂郡松崎町 桜田188	学 校 敷 地	学 校 敷 地	m ² 0.07 16.12		免除	2.4.1 ～ 7.3.31	松崎町長	避難地標識敷地 防災倉庫敷地 救護所用衣料資材 セット保管 デジタル防災行政 無線(移動系)設置
					RC造2階建 (講堂)	8.50					
					RC造4階建 (第1棟)	0.09					
7	建物	事務所建	賀茂郡松崎町 桜田188	RC造4階建 (第1棟)		m ² 1.00		免除	2.4.1 ～ 7.3.31	静岡県立松崎高等学校 PTA会長	公衆電話設置
8	土地	学校敷地	賀茂郡松崎町 桜田188	学 校 敷 地	学 校 敷 地	パイプ 1本 外径0.203m L=180m		23,400	5.4.1 ～ 7.3.31	㈱スタディー	温泉水送湯管設置
9	土地	学校敷地	賀茂郡松崎町 桜田188	学 校 敷 地	学 校 敷 地	m ² 7.64		免除	2.4.1 ～ 7.3.31	静岡県立松崎高等学校 PTA会長	美術作品展示敷地
10	土地 建物	学校敷地 事務所建	賀茂郡松崎町 桜田188	学 校 敷 地	学 校 敷 地	m ² 4.90		免除	2.4.1 ～ 6.6.30	静岡県立松崎高等学校 PTA会長	空調設備設置
					RC造2階建 (第2棟)	5.93					
11	土地	学校敷地	賀茂郡松崎町 桜田188	学 校 敷 地	学 校 敷 地	m ² 113.06		免除	2.4.1 ～ 7.3.31	松崎町長	町道敷地
12	建物	事務所建	賀茂郡松崎町 桜田188	RC造4階建 (第1棟)		m ² 6.60		免除	2.4.1 ～ 7.3.31	静岡県立松崎高等学校 PTA会長	団体職員執務場所
13	建物	事務所建	賀茂郡松崎町 桜田188	RC造2階建 (第2棟)		m ² 1.00		免除	6.4.1 ～ 7.3.31	静岡県立松崎高等学校 PTA会長	食品用自動販売機 設置
14	土地 建物	学校敷地 事務所建	賀茂郡松崎町 桜田188	学 校 敷 地	学 校 敷 地	m ² 54.57 3.36		免除	6.4.1 ～ 9.3.31	静岡県立松崎高等学校 同窓会会長	塑像作品展示敷地
					RC造3階建 (セミナーハウス)	2.04					
					RC造4階 (第1棟)	0.53					
					RC造2階建 (講堂)	1.49					

整理 番号	区分	種別	所在地	地 目		数量又は 面 積	貸付料又は 使用料		貸付又は 使用許可 期 間	貸付又は使用許可 を受けた者の氏名	貸付・使用許可 目 的
				台帳	現況		単価	年額			
15	土地	学校敷地	賀茂郡松崎町 桜田188	学 校 敷 地	学 校 敷 地	m ² 91.58		免除	2.4.1 ～ 7.3.31	松崎町長	農道敷地
16	土地	学校敷地	賀茂郡松崎町 桜田188	学 校 敷 地	学 校 敷 地	m ² 4.00		767,800	6.4.1 ～ 9.3.31	コカ・コーラボトラーズ ジャパン㈱ベンディング中部日本 地区総括部ベンディング静岡 支店長	自動販売機設置
17	建物	事務所建	賀茂郡松崎町 桜田188	RC造2階建 (第2棟)		m ² 5.04		免除	6.4.1 ～ 7.3.31	静岡県立松崎高等学校 P T A 会長	パン販売場所
18	土地	学校敷地	賀茂郡松崎町 桜田188	学 校 敷 地	学 校 敷 地	m ² 16.10		免除	2.4.1 ～ 7.3.31	松崎町長	防災倉庫設置
19	建物	事務所建	賀茂郡松崎町 桜田188	RC造4階建 (第1棟)		m ² 0.09		免除	4.4.1 ～ 7.3.31	松崎町長	防災無線設置
20	土地	学校敷地	賀茂郡松崎町 桜田188	学 校 敷 地	学 校 敷 地	m ² 1.00		免除	4.4.1 ～ 7.3.31	下田土木事務所長	土砂災害警戒区域 標識設置
合 計								829,330			

□□□□□□□□

普通財産・借受財産等貸付調

(令和6年10月31日現在)

整理 番号	区分	種別	所在地	地 目		数量又は 面 積	貸付料又は 使用料		貸付又は 使用許可 期 間	貸付又は使用許可 を受けた者の氏名	貸付・使用許可 目 的
				台帳	現況		単価	年額			
1	土地	公舎敷地	賀茂郡松崎町 江奈209-3	公 舎 敷 地	宅 地	電柱1本	1,500	円 1,500	2.4.1 ～ 7.3.31	東京電力パワーグリッド ㈱伊豆支社長	一般電力供給用
2	土地	公舎敷地	賀茂郡松崎町 江奈548-1	公 舎 敷 地	宅 地	電柱1本 支線2条	1,500	4,500	2.4.1 ～ 7.3.31	東京電力パワーグリッド ㈱伊豆支社長	一般電力供給用
3	土地	公舎敷地	賀茂郡松崎町 江奈548-1	公 舎 敷 地	宅 地	電柱2本 支線1条	1,500	4,500	6.4.1 ～ 9.3.31	西日本電信電話㈱ 静岡支店長	公衆電気通信線路 用
4	土地	公舎敷地	賀茂郡松崎町 桜田47-6	公 舎 敷 地	宅 地	電柱1本	1,500	1,500	6.4.1 ～ 9.3.31	西日本電信電話㈱ 静岡支店長	公衆電気通信線路 用
5	建物	住宅建	賀茂郡松崎町 江奈548-1	職 員 住 宅	RC造 3階建	m ² 37.97		免除	4.4.1 ～ 7.3.31	下田土木事務所長	災害時活動拠点 職員一時避難場所
合 計								12,000			

職 員 公 舎 管 理 状 況 調

(令和 6 年10月31日現在)

整理 番号	所在地	建築 年月	構造	管理戸 (室)数 (A)	入居戸 (室)数 (B)	B の 内 他事務所職員 入居戸(室)数	空屋戸 (室)数 (A - B)	摘 要
1	賀茂郡松崎町 江奈209-3	H3. 3	RC造 2階建 1棟	4	1	0	3	世帯用住宅 2戸 単身用住宅 2戸 土地(県有) 建物(県有) 空室年月日 5. 4. 1～ 2戸 6. 4. 1～ 1戸
2	賀茂郡松崎町 江奈548-1	H4. 6	RC造 4階建 1棟	16	7	4	9	単身用住宅 土地(県有) 建物(県有) 下田高校 1戸 下田土木松崎支所 1戸 伊豆の国特別支援学校 2戸 空室年月日 31. 4. 1～ 4戸 4. 10. 1～ 1戸 5. 4. 1～ 2戸 5. 5. 1～ 1戸 6. 4. 1～ 1戸
3	賀茂郡松崎町 江奈548-1	S60. 8	RC造 3階建 1棟	6	4	4	2	単身用住宅 土地(県有) 建物(県有) 下田土木松崎支所 4戸 入居戸数の内1戸は、下田土木事務所松崎 支所に災害時の活動拠点として使用承認 空室年月日 4. 4. 1～ 2戸
4	賀茂郡松崎町 桜田47-6	S43. 3	RC造 2階建 1棟	4	4	0	0	世帯用住宅 土地(県有) 建物(県有)
5	賀茂郡松崎町 桜田47-6	S45. 3	RC造 2階建 1棟	2	2	1	0	世帯用住宅 土地(県有) 建物(県有) 松崎町 1戸
	計			32	18	9	14	

□□□□□□□□

主 要 備 品 調

(令和6年10月31日現在)

整理 番号	区 分		品 名・規 格	利 用 状 況	購入年月	購入金額
	大・中	小				
1	1-4	たな	スチール書架 複式7段 4連 5列	図書室用 毎日使用 (年間使用日数 365日)	年 月 H12. 2	円 1,690,500
2	10-12	トレーニング用器具	トレーニングマシン セノーBA2113	クラブ活動用 毎日使用 (年間使用日数 359日)	H 1. 12	1,133,000
3	2-2	放送装置	校内放送設備 ナショナルWL-726	管理用 毎日使用 (年間使用日数 242日)	H13. 2	1,060,500
4	2-2	その他の情報伝達機器	70インチ一体型電子黒板	実験等教育用 授業使用 (年間使用日数 199日)	H25. 3	1,029,000
5	1-99	その他の庁用器具	ステージ 緞帳舞台幕	行事用 行事使用 (年間使用日数 9日)	H25. 9	994,350
6	2-1	その他の情報処理機器	SKYMENU Pro	情報処理教育用 授業使用 (年間使用日数 199日)	H26. 2	924,000
7	10-7	鍵盤楽器	グランドピアノ ヤマハ	音楽教育用 授業使用 (年間使用日数 79日)	S60. 12	900,000
8	2-1	その他の情報処理機器	無線LAN装置 アキスバ°イント6 レイヤスイッチ3	ICT活用教育用 (年間使用日数 365日)	H31. 3	797,040
9	3-3	プロジェクター	プロジェクター PT-MZ780jw	体育館用 授業・行事使用 (年間使用日数 100日)	R 4. 3	775,500
10	1-99	その他の庁用器具	ユニットハウス38MSL	生徒健康管理用 毎日使用 (年間使用日数 365日)	R 3. 1	770,000
11	2-2	その他の情報伝達機器	75型電子黒板	実験等教育用 授業使用 (年間使用日数 199日)	R 4. 3	768,900
12	3-1	その他の撮影機器	顔認証型AIサーマルカメラ DC77	生徒健康管理用 (年間使用日数 242日)	R 2. 10	748,000
13	10-7	鍵盤楽器	アップライトピアノ KU-80	音楽教育用 授業使用 (年間使用日数 79日)	H10. 1	708,120
14	1-4	移動書庫	移動書庫 固定5列、移動4列	職員室用 毎日使用 (年間使用日数 365日)	H28. 3	685,800
15	10-7	鍵盤楽器	グランドピアノ ヤマハ	行事用 行事使用 (年間使用日数 9日)	S55. 3	660,000
16	10-6	教育調理器具	生徒用調理台 ヤカミ YF-22DH	家庭科教育用 授業使用 (年間使用日数 121日)	H 9. 3	628,300
17	10-6	教育調理器具	生徒用調理台 ヤカミ YF-22DH	家庭科教育用 授業使用 (年間使用日数 121日)	H 9. 3	628,300
18	10-6	教育調理器具	生徒用調理台 ヤカミ YF-22DH	家庭科教育用 授業使用 (年間使用日数 121日)	H 9. 3	628,300
19	10-6	教育調理器具	生徒用調理台 ヤカミ YF-22DH	家庭科教育用 授業使用 (年間使用日数 121日)	H 9. 3	628,300
20	10-6	教育調理器具	生徒用調理台 ヤカミ YF-22DH	家庭科教育用 授業使用 (年間使用日数 121日)	H 9. 3	628,300

□□□□□

職 員 調

(令和6年10月31日現在)

整理 番号	職 名	氏 名	事務分担	住 所	勤務年数 年 月	摘 要
1	校 長	八 代 弘 和		□ □ □ □	□ □	□□□
2	副校長	矢 野 あ お い		□ □ □	□ □	□□□ □□□□□□□□□□□□
3	教 頭	稲 葉 渉	地歴公民	□ □ □	□ □	□□□
4	事務長	森 薫	事務総括	□ □ □	□ □	□□□ □□□□□□□□□
5	教 諭	松 本 誠	数 学	□ □ □	□ □	□□□ □□□
6	教 諭	鈴 木 純	英 語	□ □ □	□ □	□□□
7	教 諭	鳥 澤 真 理 子	英 語	□ □ □	□□ □	□□□
8	教 諭	後 藤 麻 美	国 語	□ □ □	□ □	□□□ □□□□□□□□□□□□
9	教 諭	福 井 聡 太	地歴公民	□ □ □ □	□ □	□□□
10	教 諭	稲 本 麻 美	家 庭	□ □ □	□ □	□□□
11	教 諭	横 山 祐 馬	地歴公民	□ □ □	□ □	□□□
12	教 諭	高 橋 朝 行	国 語	□ □ □	□ □	□□□
13	教 諭	大 川 晋 太 郎	体 育	□ □ □	□ □	□□□
14	教 諭	渡 邊 将 弘	理 科	□ □ □	□ □	□□□
15	教 諭	山 田 さ や か	美 術	□ □ □	□ □	□□□ □□□□□□□□□□□□□□
16	教 諭	高 木 聡 一 郎	地歴公民	□ □ □	□ □	□□□
17	教 諭	藤 本 隼 也	国 語	□ □ □	□ □	□□□
18	教 諭	奥 山 綾 香	理 科	□ □ □	□ □	□□□ □□□□□□□□□□□□
19	教 諭	金 指 皓 太	体 育	□ □ □	□ □	□□□ □□□□□□□
20	教 諭	三 田 望 夢	国 語	□ □ □	□ □	□□□
21	教 諭	北 川 喜 己	数 学	□ □ □	□ □	□□□
22	養護教諭	平 尾 法 子	養 護	□ □ □	□ □	□□□□
23	主 任	渡 邊 隆 之 介	会計・管財	□ □ □	□ □	□□□□□□□□□□□□□□□□
24	主 事	木 下 修 斗	庶務・会計	□□□□□	□ □	□□□□□□□□□□□□□□□□
25	技能長	鈴 木 芳 江	用 務	□ □ □ □	□□ □	
26	主任技能員	土 田 隆 太 郎	用 務	□ □ □	□□ □	
平均年数					□ □	

(臨時職員・会計年度任用職員)

整理 番号	職 名	氏 名	事務分担	住 所	勤務年数	摘 要
					年 月	
1	教諭(臨)	佐 藤 浩 司 郎	美 術	□ □ □ □	□ □	□□□
2	教諭(臨)	山 本 真 大	数 学	□ □ □	□ □	□□□
3	教諭(臨)	関 野 陽 生	英 語	□ □ □	□ □	□□□
4	実習助手(臨)	金 崎 晴 美	理 科	□ □ □	□ □	
5	会計年度任用職員	キャリアレジーナ	英 語	□ □ □	□ □	外国語指導講師
6	会計年度任用職員	渡 邊 三 三 子	数 学	□ □ □	□□ □	□□□ 非常勤講師
7	会計年度任用職員	梅 田 達 也	美 術	□ □ □ □	□□ □	□□□ 非常勤講師
8	会計年度任用職員	植 松 瞳	書 道	□ □ □	□ □	非常勤講師
9	会計年度任用職員	佐 藤 紀 子	音 楽	□ □ □	□ □	非常勤講師
10	会計年度任用職員	井 上 幸 太	用 務	□ □ □ □	□ □	非常勤労務職員
11	会計年度任用職員	石 田 金 也	部活動指導	□ □ □ □	□ □	部活動指導員
12	校 医	中 江 順	内 科	□ □ □	□ □	
13	校 医	宇 野 明 彦	眼 科	□ □ □	□□ □	
14	校 医	大 石 延 正	耳 鼻 科	□□□□□	□□ □	
15	校 医	中 江 希 望	歯 科	□ □ □	□□ □	
16	学校薬剤師	高 橋 浩		□ □ □	□□ □	
17	健康管理医	池 田 正 見		□ □ □	□ □	

□□□□□□□

職員の年齢調

(令和 6 年10月31日現在)

年 齢	人 員	摘 要
20歳未満	0 人	
20歳以上30歳未満	3	
30歳以上40歳未満	10	
40歳以上50歳未満	6	
50歳以上56歳未満	3	
56歳以上61歳未満	3	
61歳以上	1	再任用職員 1 人
計	26	平均年齢 41.6 歳

□□□□□□□

健康管理

1 令和 5 年度受診状況

区 分	内 容
受 診 状 況	受診者数 25 人
	職 員 数 27 人
受 診 率	100.0 %
県 平 均 受 診 率	100.0 %

(1) 未受診の理由

□□□□

□□□□□□□□□□

2 令和 6 年度在籍者の健康管理区分結果

健 康 管 理 区 分			人 数
A	休養のため必要な期間、勤務を休止させる。		0 人
B 1	勤務時間を短縮し、時間外、休日、宿日直勤務及び長期又は遠方への出張をさける。また、必要に応じ勤務場所、勤務内容の変更を行う。	要 治 療	0 人
B 2		要経過観察	0 人
C 1	勤務をほぼ平常に行ってよいが症状によっては、時間外、休日、宿日直勤務及び長期又は遠方への出張等勤務に制限を加える必要がある。	要 治 療	1 人
C 2		要経過観察	0 人
D 1	平常の勤務でよい。	要 治 療	4(4) 人
D 2		要経過観察	14(14) 人
D 3		医 療 不 要	3(3) 人
区 分 者 計			22 人
未 区 分 者 数			4 人
合 計			26 人

(1) 管理区分 A～C 2 該当者に対する措置状況

(2) 未区分の理由

ア □□□□□ □□

イ □□□□ □□

ウ □□□□□□□□□□ □□

エ □□□ □□

□□□□□□□□□□□□□□